

# 平成29年度第2回 岡山市総合教育会議

日 時：平成30年1月25日（木）

午後3時30分～

場 所：市庁舎 第3会議室

## 会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

(1) 家庭学習の充実に向けて

(2) 教職員の勤務負担軽減について

3 閉 会

## 家庭学習の充実に向けて

## ■平成29年度全国学力・学習状況調査より

項 目	小学校			中学校		
	岡山市	全国との差 (H29)	全国との差 (H28)	岡山市	全国との差 (H29)	全国との差 (H28)
学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）1日当たり1時間以上勉強する	68.4%	4.0	2.5	60.9%	△ 8.7	△ 9.3
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強している	55.0%	△ 2.3	△ 2.9	58.2%	△11.2	△ 9.6
家で、自分で計画を立てて勉強している	67.0%	2.5	1.6	49.1%	△ 2.4	△ 1.3

現  
状  
と  
課  
題

◆自主的・計画的に家庭学習に取り組む子どもの育成を図る必要がある。

課  
題  
解  
決  
に  
向  
け  
た  
取  
組【夢や目標をもつこと  
による学習意欲の向上】

- キャリア教育の推進
- 子どもたちが自らの生き方を見直す機会となるよう、多様な経験をもつ講師を学校へ派遣する。
  - 地域や企業との連携によるキャリアスタートウィーク（職場体験）を実施する。

【自主的・計画的に  
取り組む家庭学習】

- 「家庭学習これだけは！」による定期的な情報発信
- 教育委員会は、家庭学習についての指針や好事例を示す。
  - 学校は、好事例を参考に独自の取組を進める。（家庭学習につながる授業づくりや校内体制の構築）
  - 家庭への協力を呼びかける。

子どもたち一人一人の  
学力向上好  
循  
環問題行動等の  
防止及び解決

岡山市教育大綱における目標達成を目指す

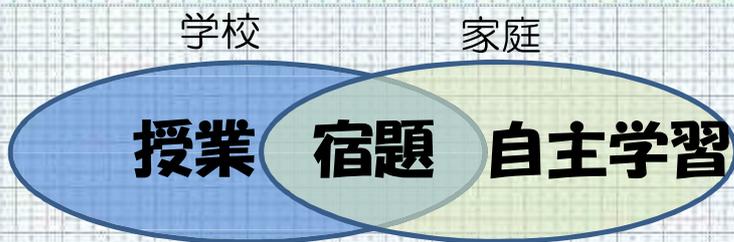
岡山市立すべての学校の統一した取組

# 家庭学習これだけは！ Vol.1

学力調査等から、子どもたちが自分で計画を立てて勉強に取り組むことや、家庭学習に取り組む時間に課題があることが明らかになりました。

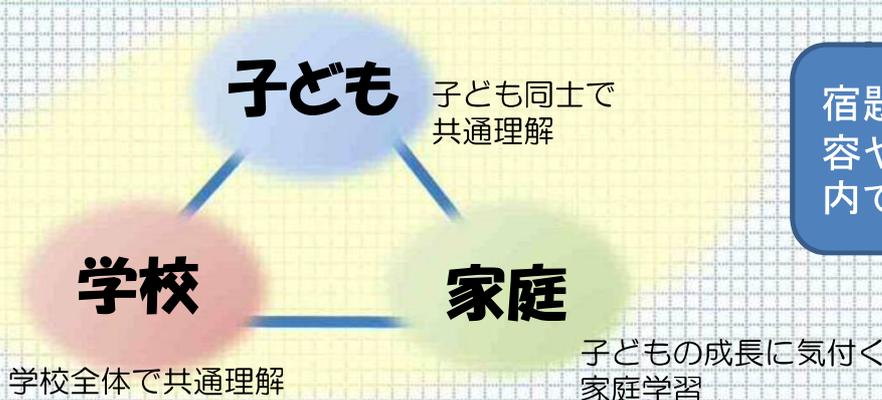
これらの課題解決に向けて、教育委員会としては、よい取組を収集し、シリーズ化して定期的に学校に配信することとしました。今後、配信する資料を活用し、子どもたちが主体的・計画的に家庭学習に取り組むよう工夫のある実践をお願いします。

## 家庭学習とつながる



宿題や自主学習を授業とのつながりで見直しましょう。

## 家庭学習でつながる

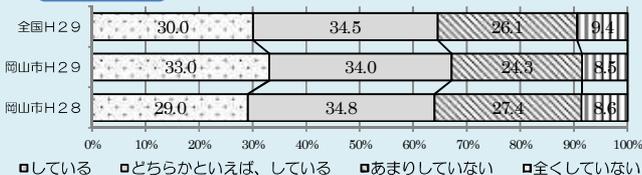


宿題や自主学習の内容や分量、出し方を校内で共有しましょう。

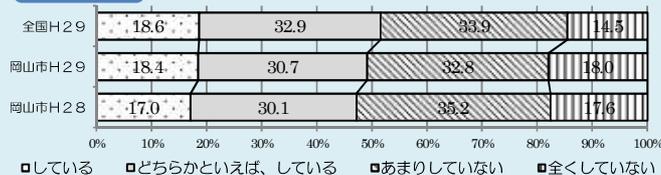
今後は好事例を定期的に配信する予定です！

### 家で自分で計画を立てて勉強している（回答状況）

#### 小学校



#### 中学校



資料：平成28・29年度全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙）

---

平成29年度第2回岡山市総合教育会議

# 調査・分析ご報告資料

## 1. 家庭学習の充実

---

平成30年1月25日  
株式会社ベネッセコーポレーション

## 【参考】岡山市の状況

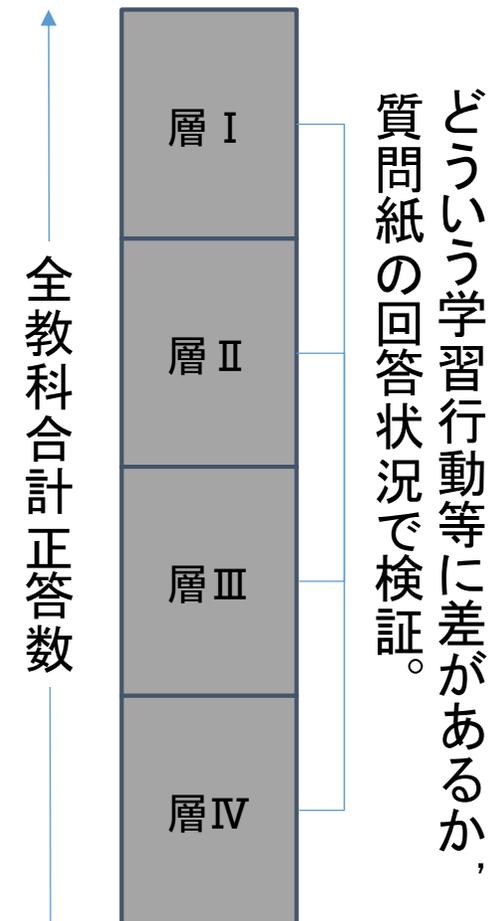
全国的な家庭学習に関するデータ

平成29年度第1回総合教育会議の資料2同様、岡山市の児童生徒を4つの層に分けて分析しております。

層の分け方は次のとおりです。

## 層Ⅰ～層Ⅳについて

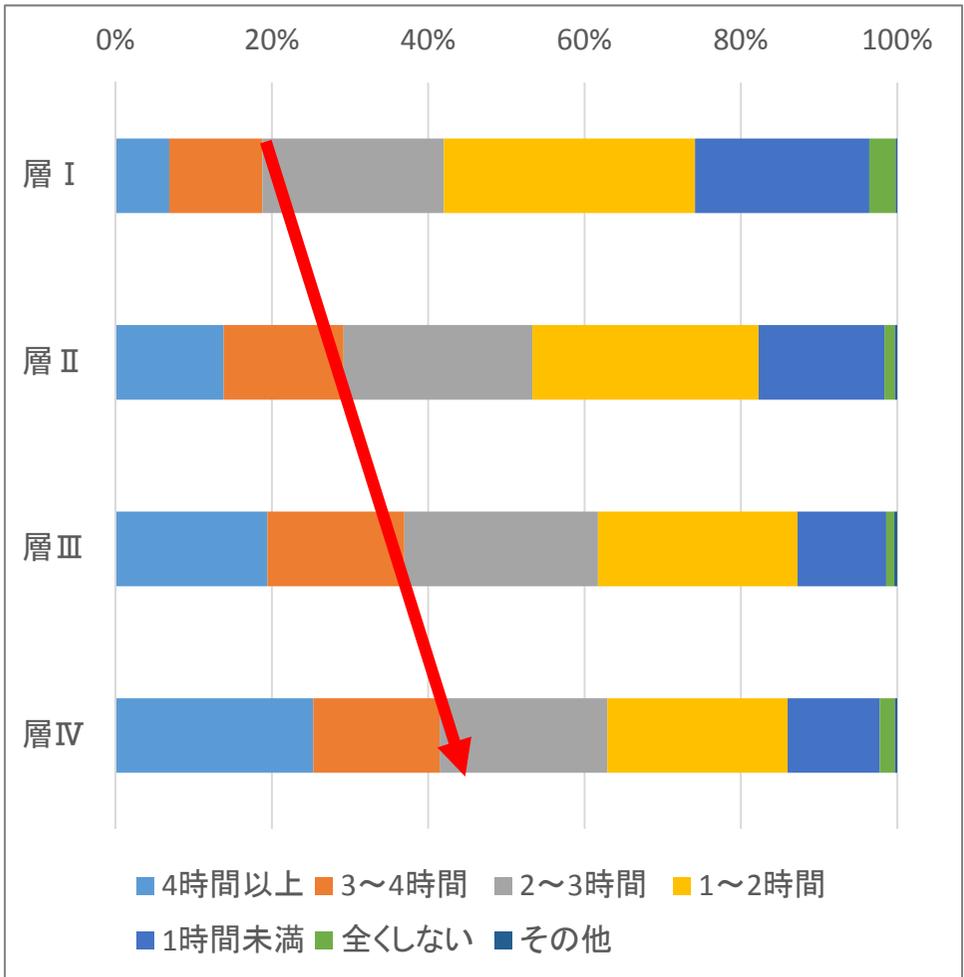
○各層は、児童生徒を平成29年度全国学力・学習状況調査における正答数の大きい順に整列し、人数比率により4つに分割しました。



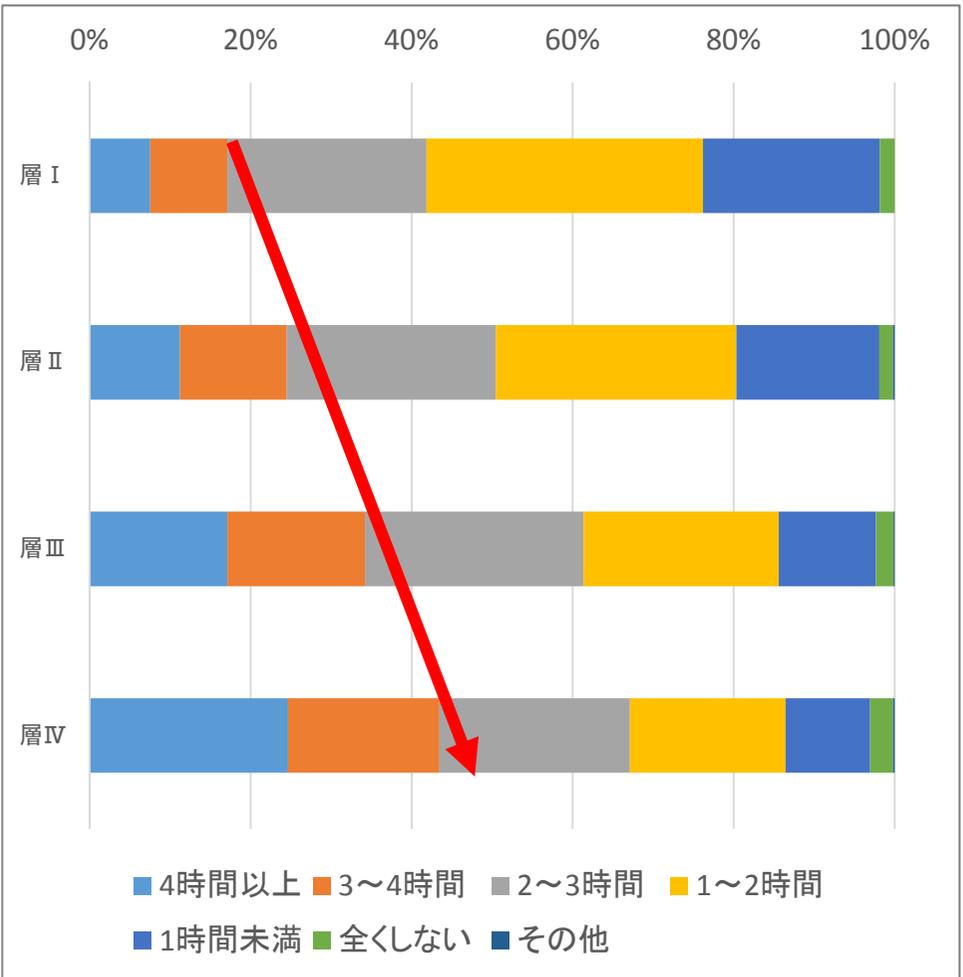
平日のテレビ・ビデオ・DVD等の視聴時間に関して、層Ⅰでは、小学生，中学生とも2～3時間以下が約8割。

普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，**テレビやビデオ・DVD**を見たり，聞いたりしますか（勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間，テレビゲームをする時間は除く）

小学生

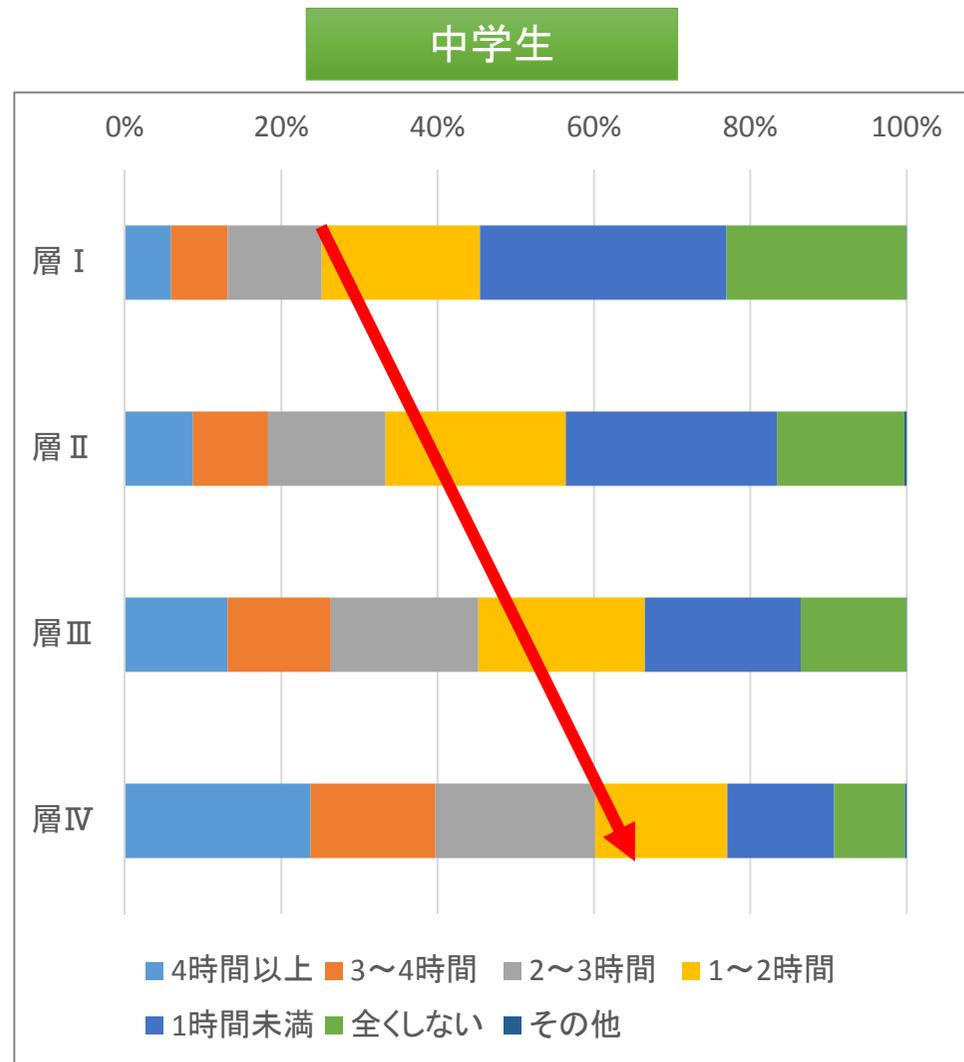
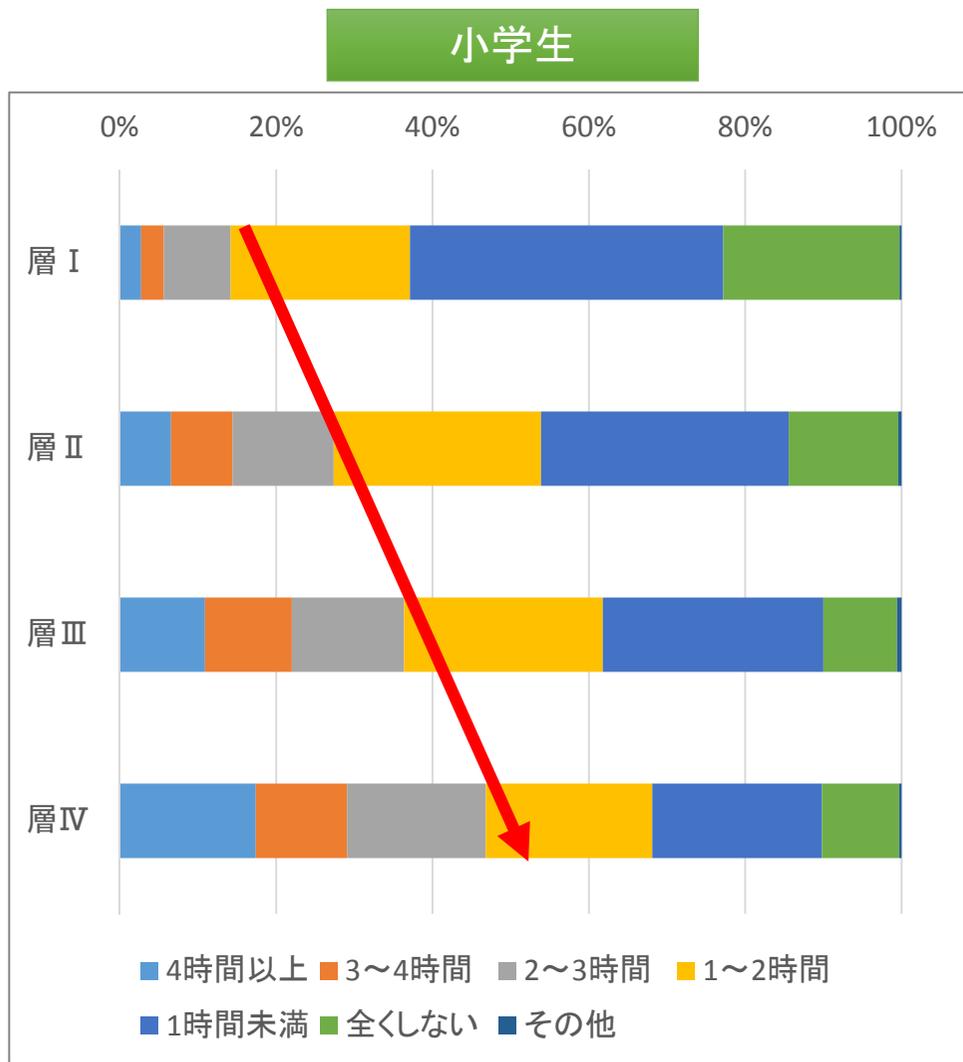


中学生



小学生よりも中学生のほうが全体としてゲームをする時間が長い。

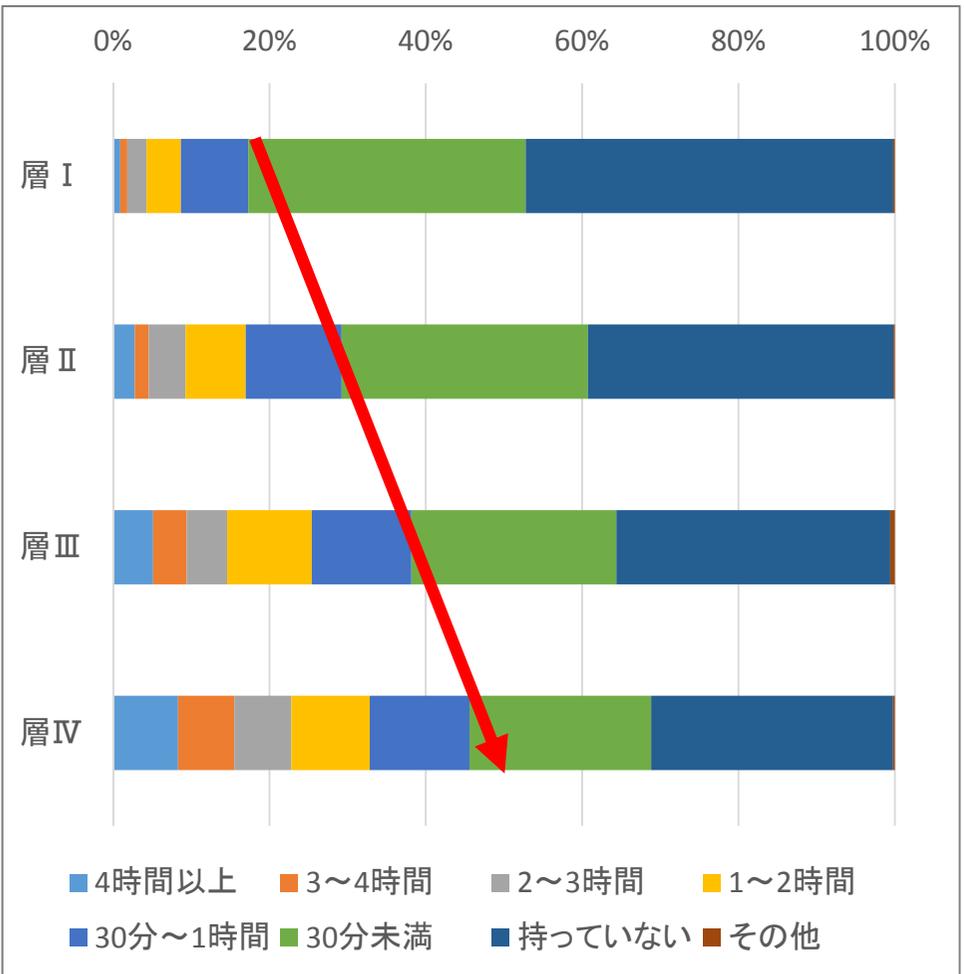
普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，**テレビゲーム**（コンピュータゲーム，携帯式のゲーム，携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



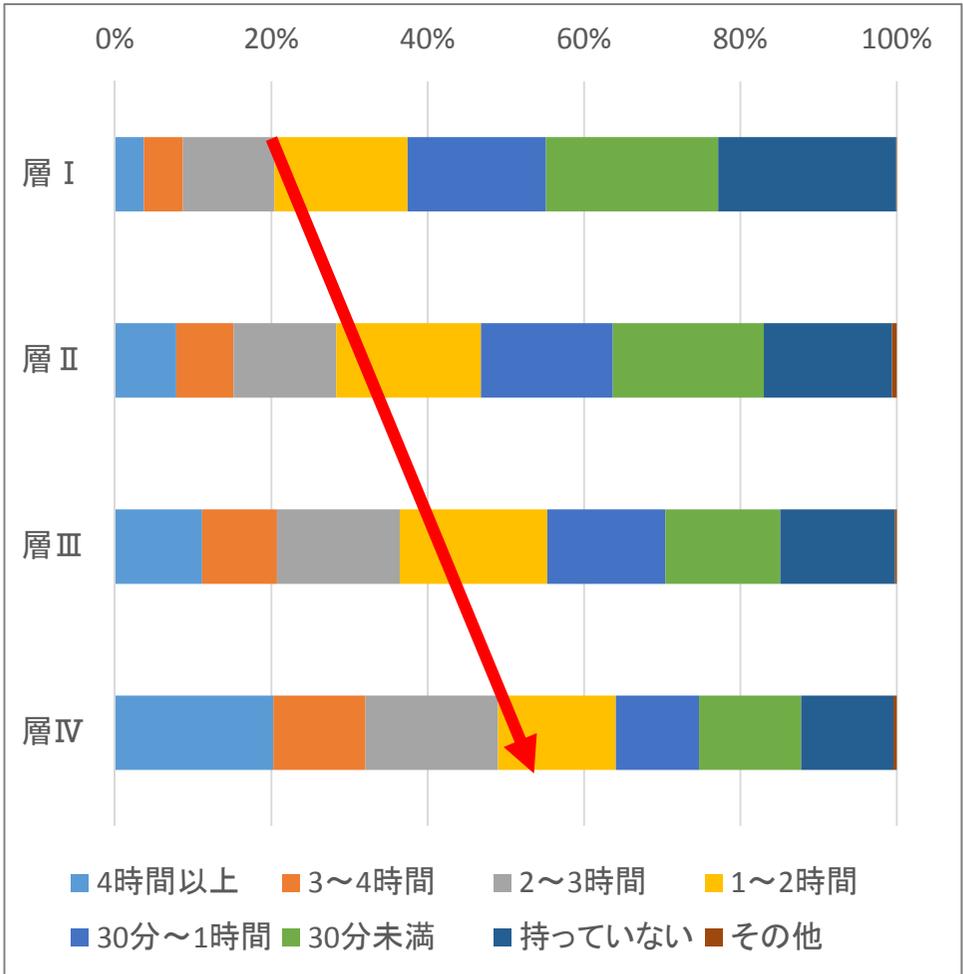
平日の“スマホ”の時間は、層 I では、小学生は30分未満が8割、中学生は1～2時間以下が8割。

普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，携帯電話やスマートフォンで通話やメール，インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

小学生



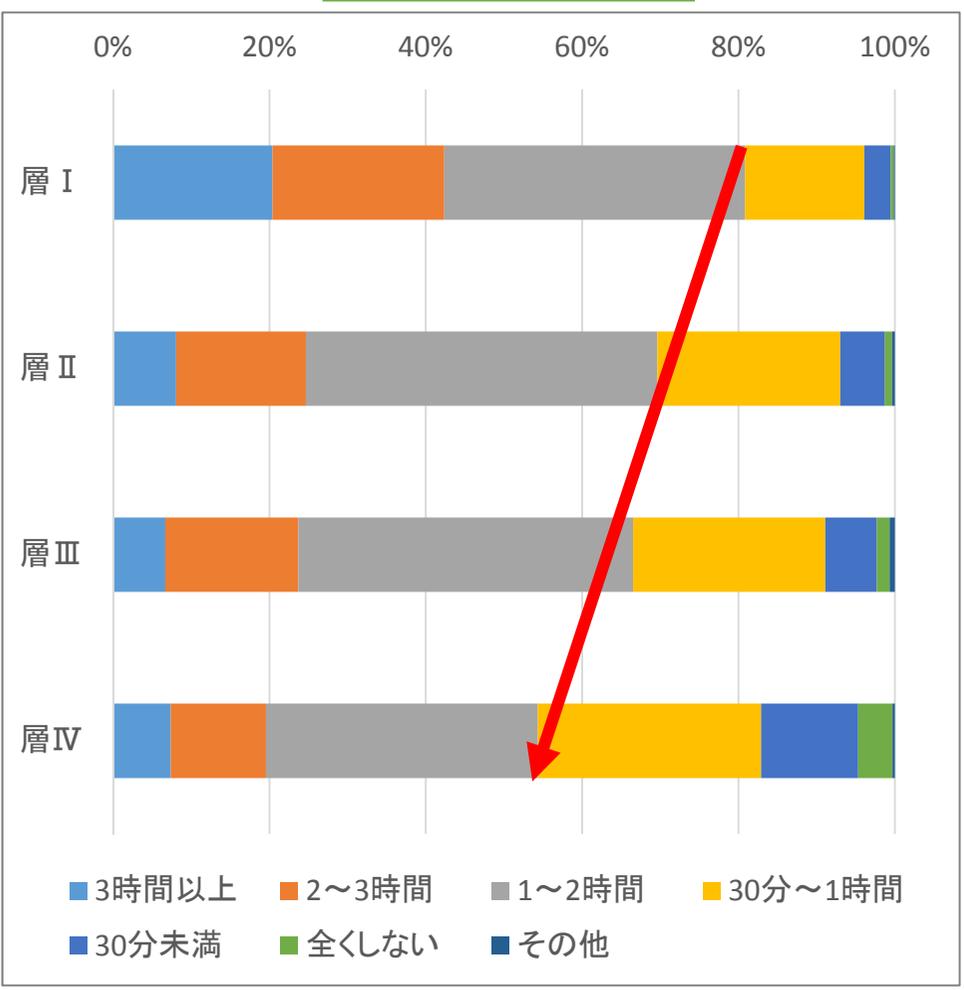
中学生



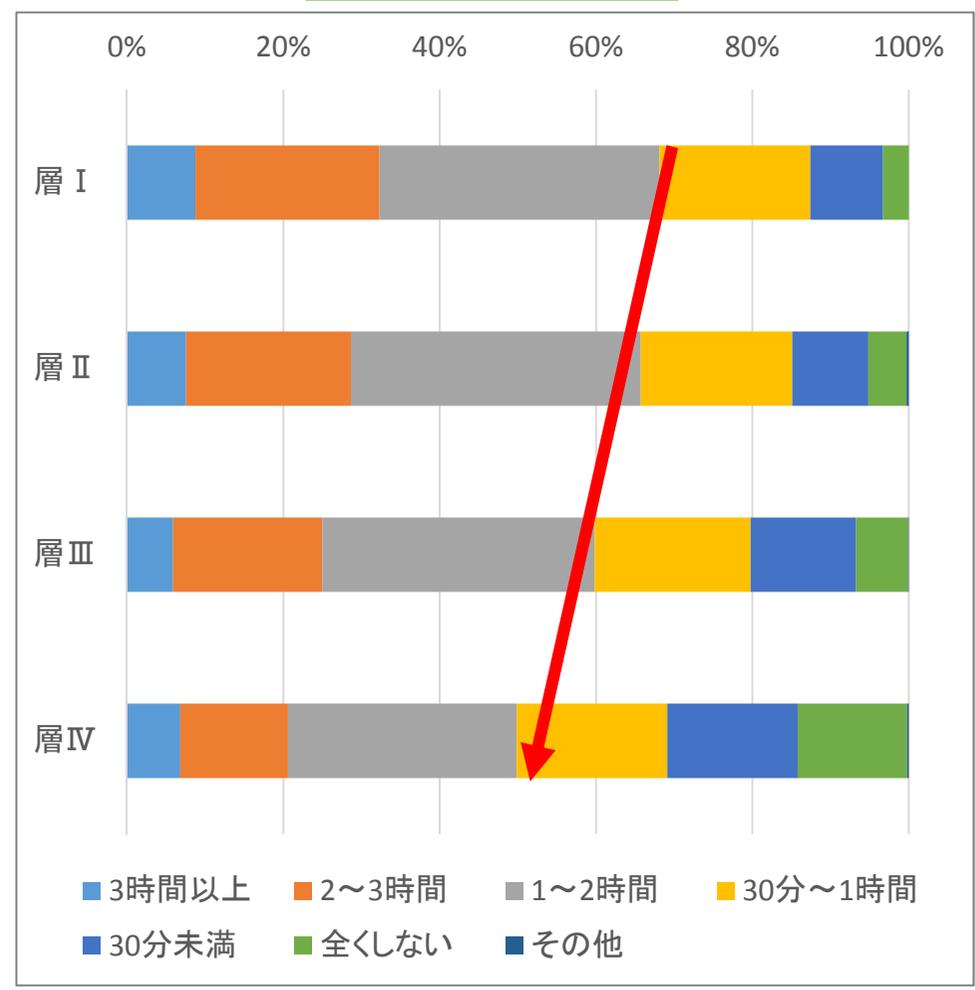
全体として、小学生のほうが平日の授業以外の学習時間が長い。  
特に層Ⅰは長く勉強している児童が多い。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学生



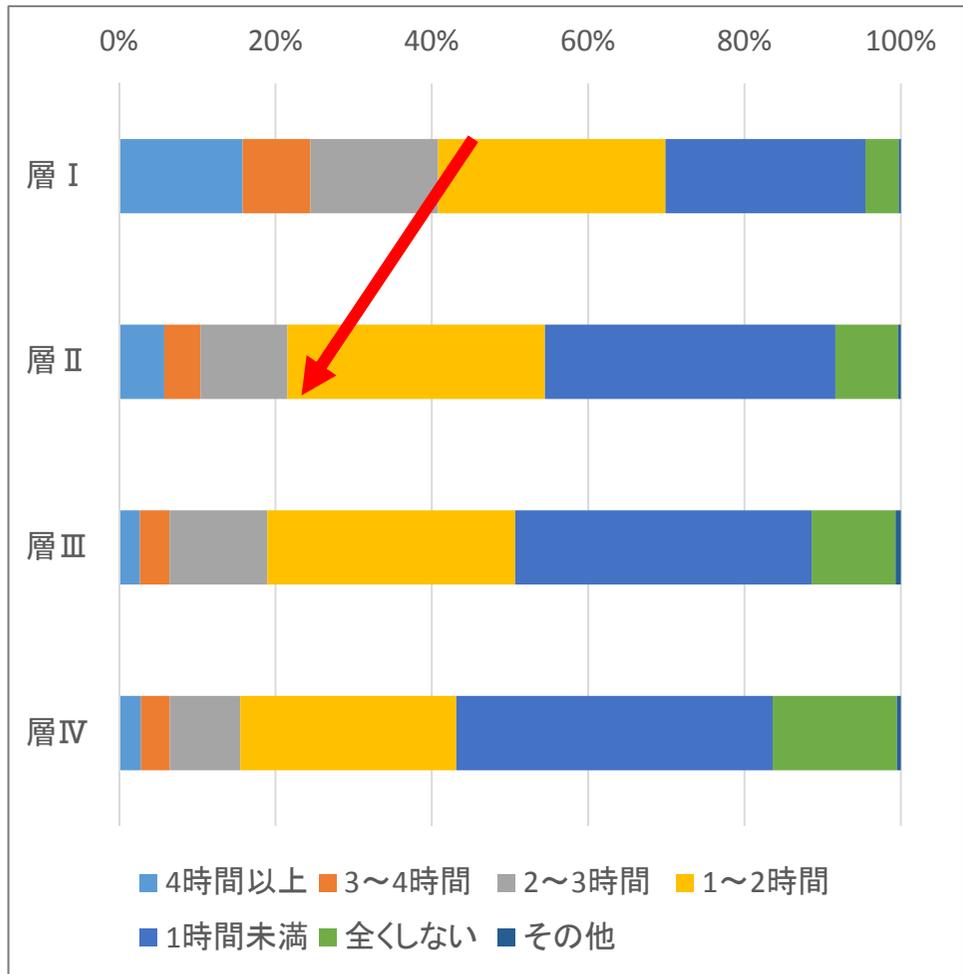
中学生



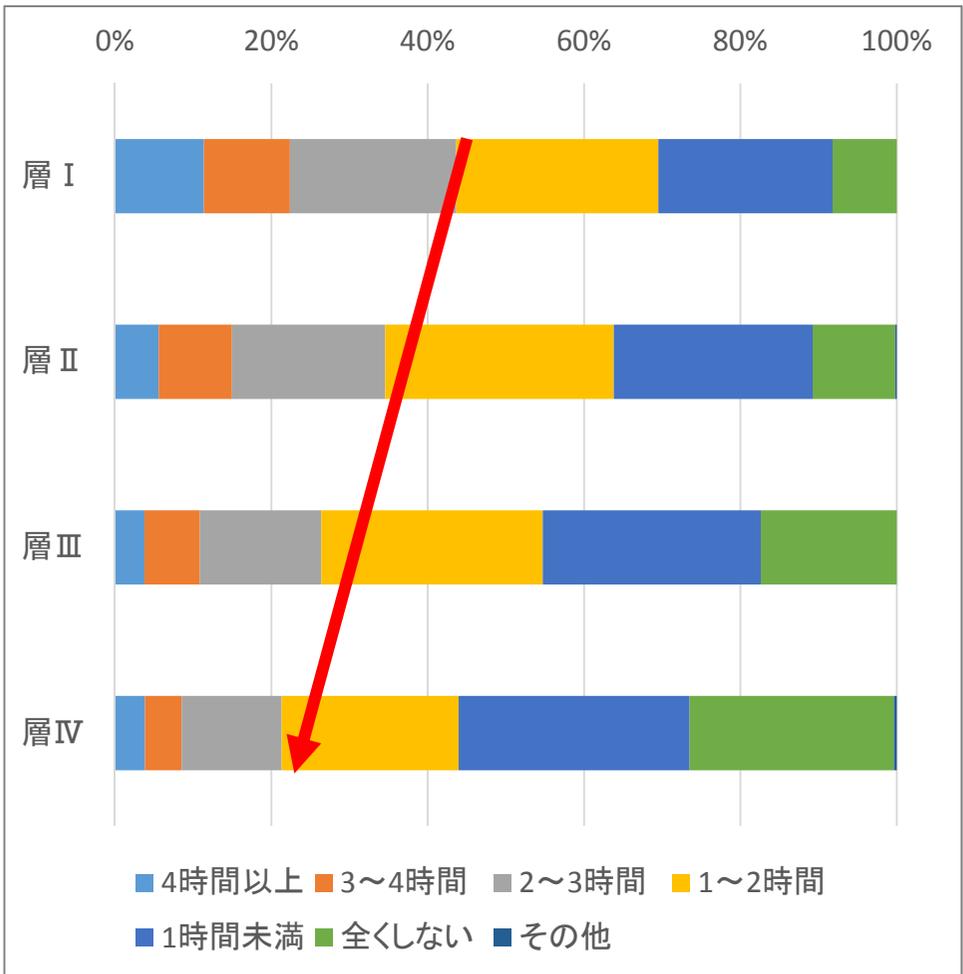
休日の学習時間は、小学生では特に層Ⅰが長い。

土曜日や日曜日など学校が**休みの日**に、1日当たりどれくらいの時間、**勉強**をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

小学生



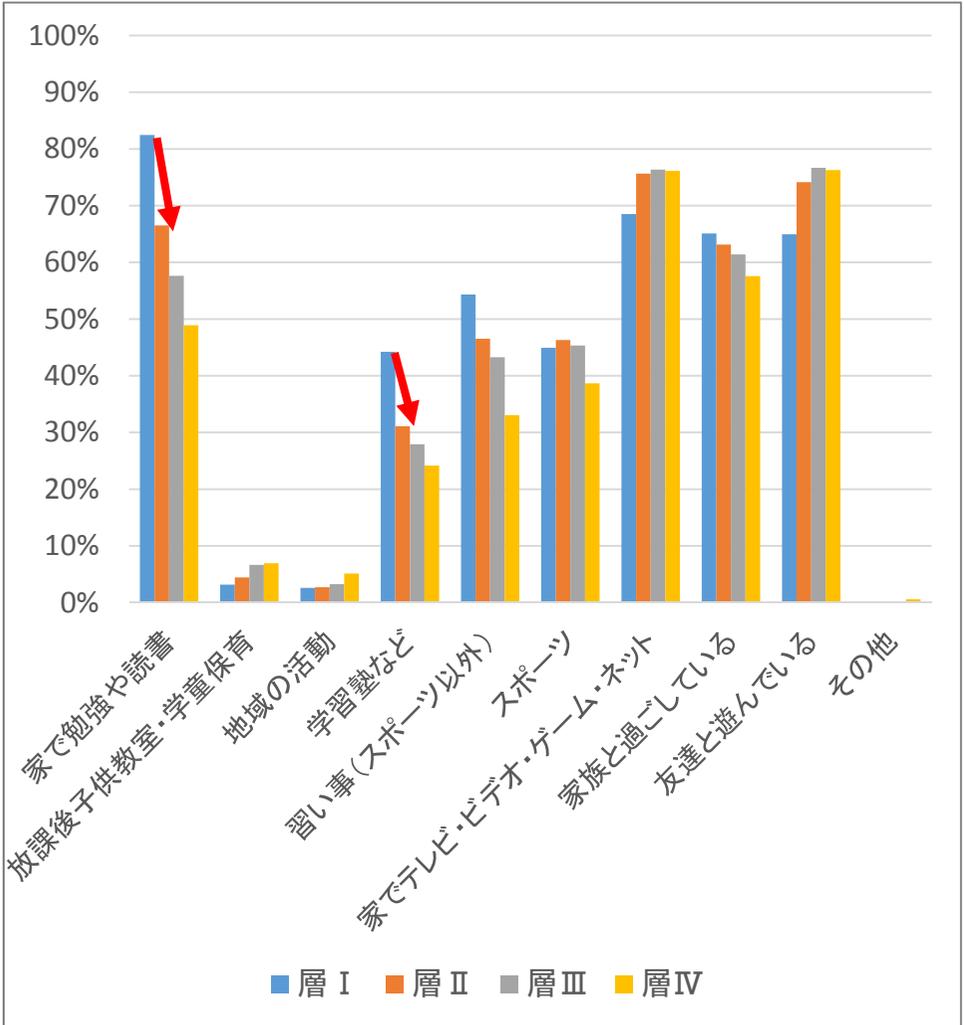
中学生



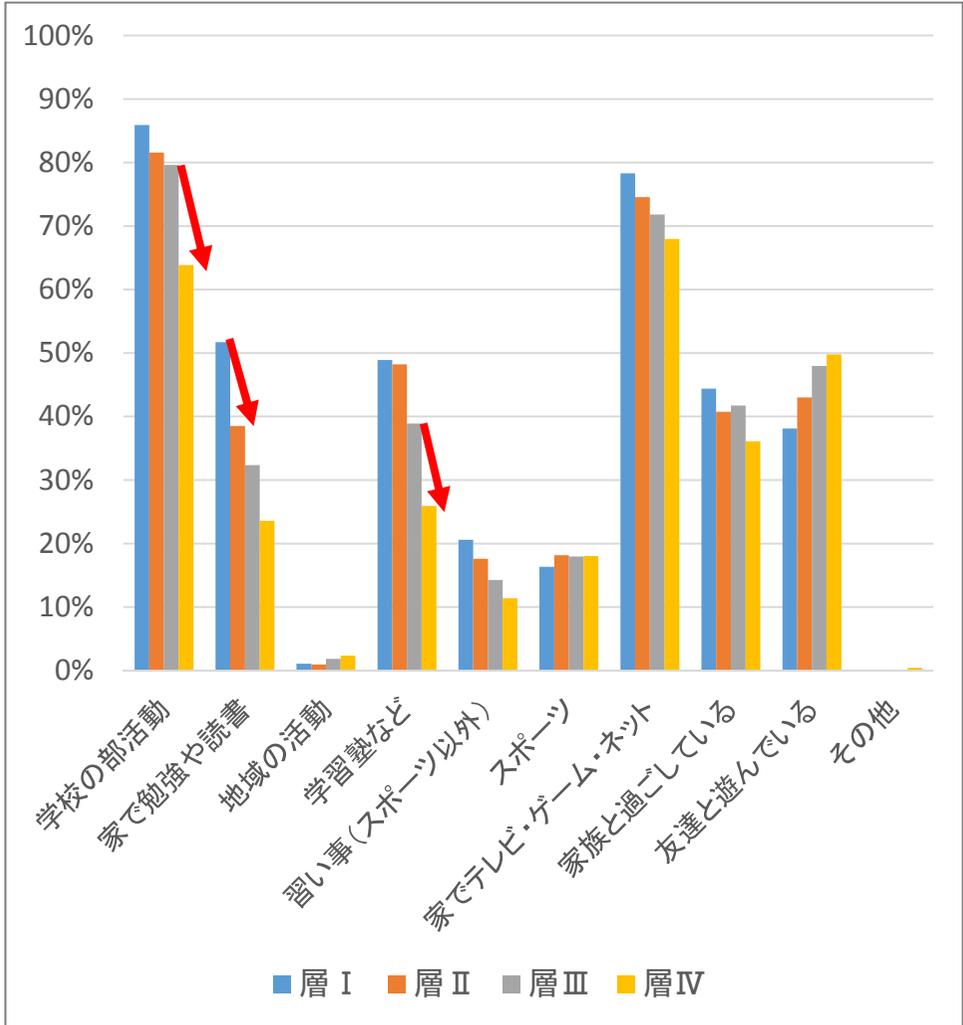
小学生では、層Ⅰの家庭学習，学習塾などが多い。  
 中学生では、層Ⅰの家庭学習，読書が多い一方，層Ⅳでの部活動，学習塾などが少ない。

放課後に何をしておこなうことが多いですか（複数回答可）

## 小学生



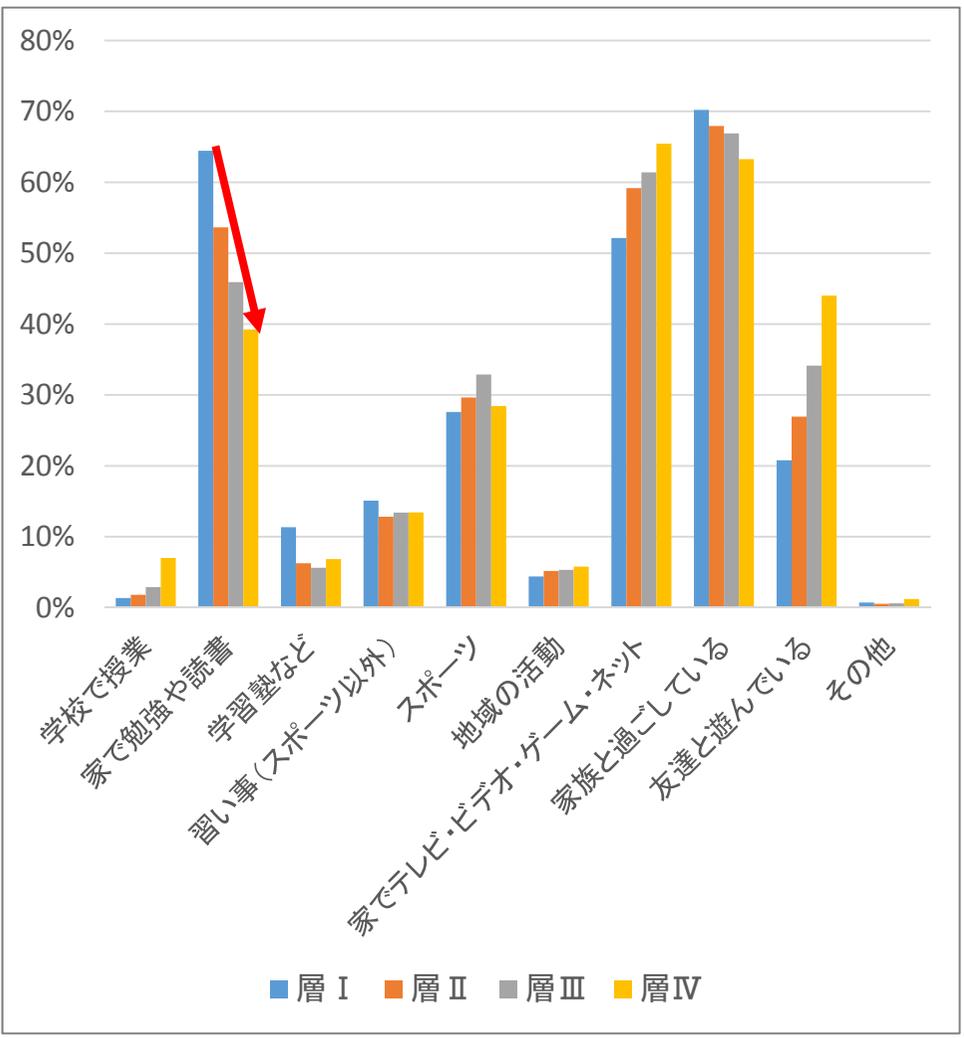
## 中学生



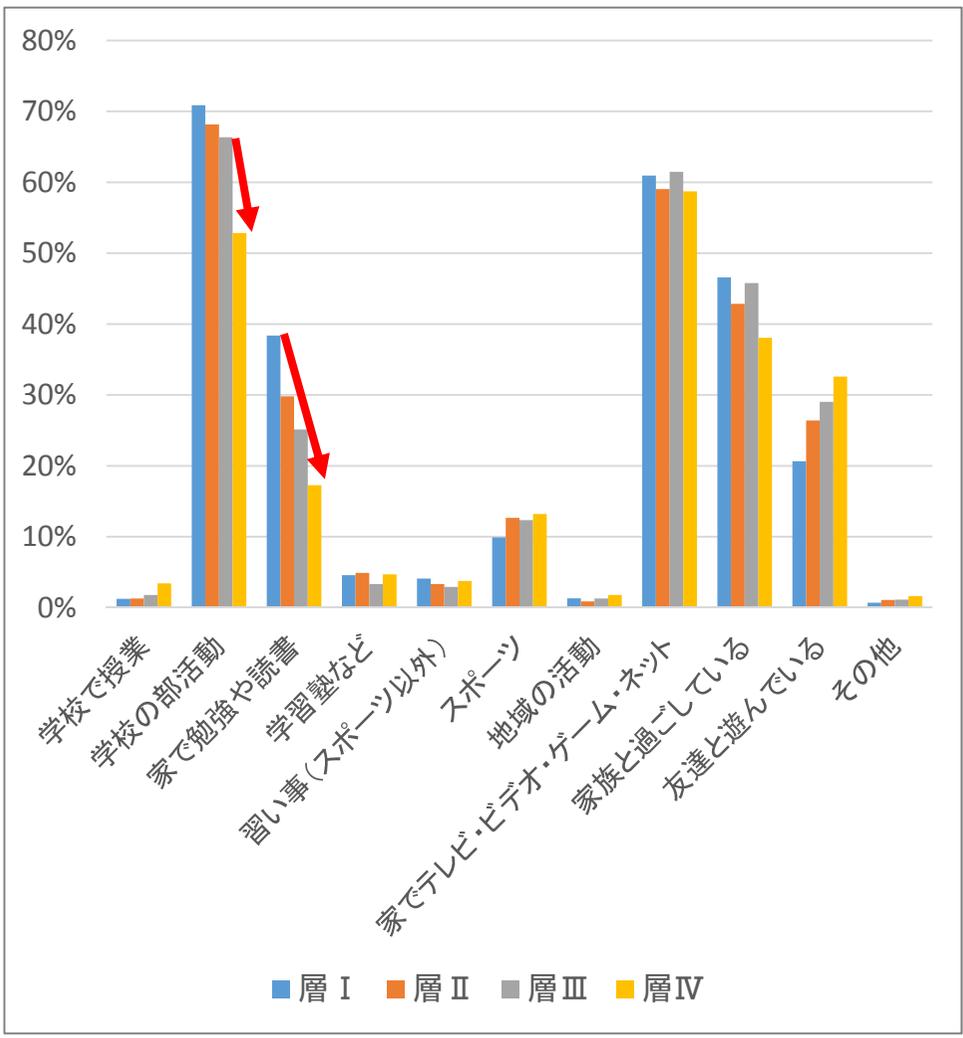
小学生，中学生とも，層ごとの家庭学習の差が大きい。  
中学生では，層Ⅳでの部活動が少ない。

土曜日の午前は，何をして過ごすことが多いですか（複数回答可）

小学生



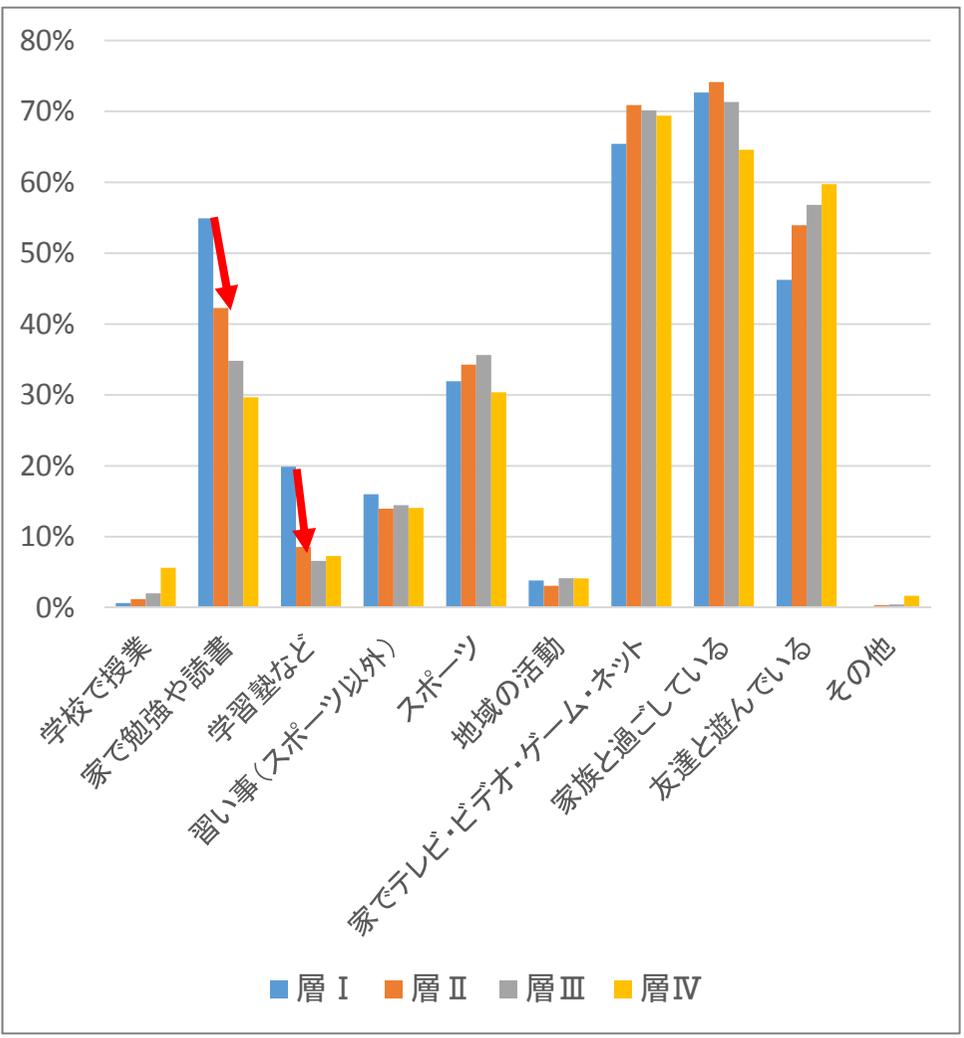
中学生



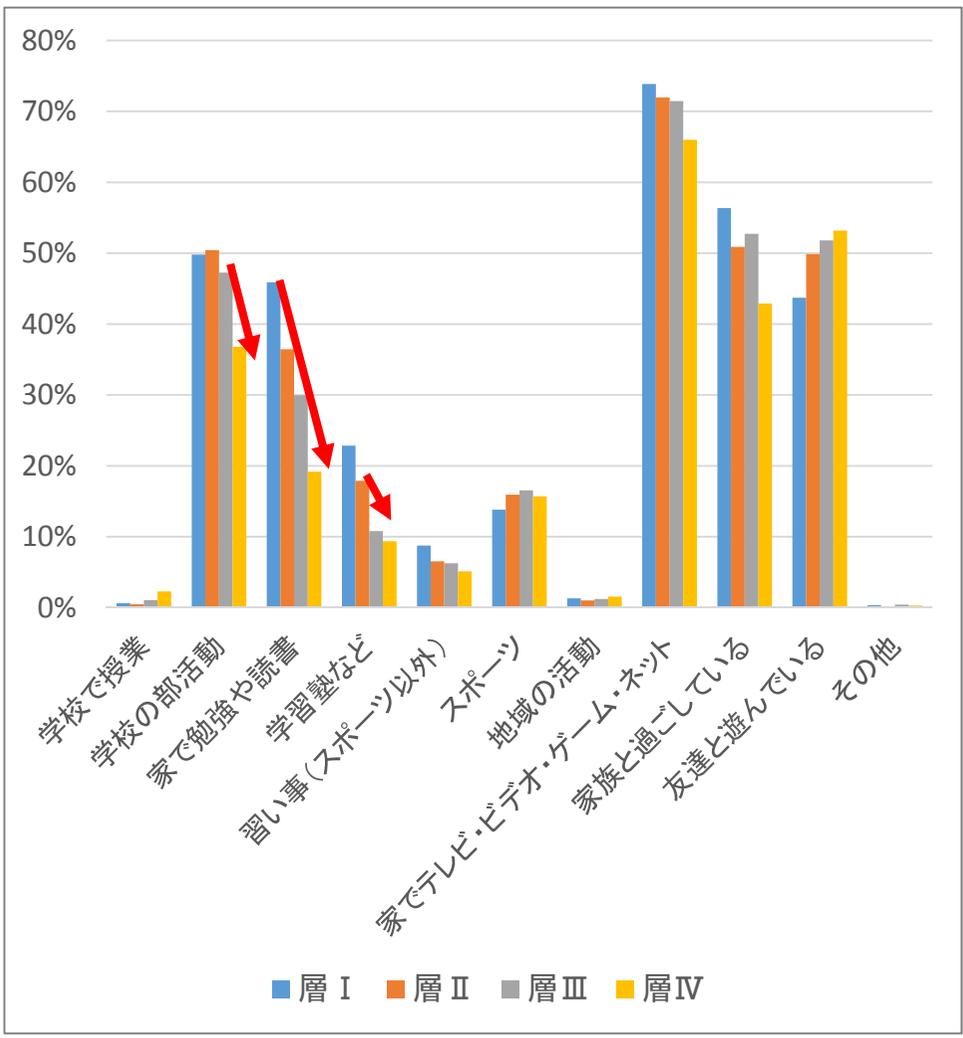
小学生では，層Ⅰの家庭学習，学習塾などが多い。  
 中学生では，層ごとの家庭学習の差が大きく，層Ⅳでは部活動が少なく，学習塾などは層ⅡとⅢの差が大きい。

土曜日の午後は，何をして過ごすことが多いですか（複数回答可）

小学生



中学生

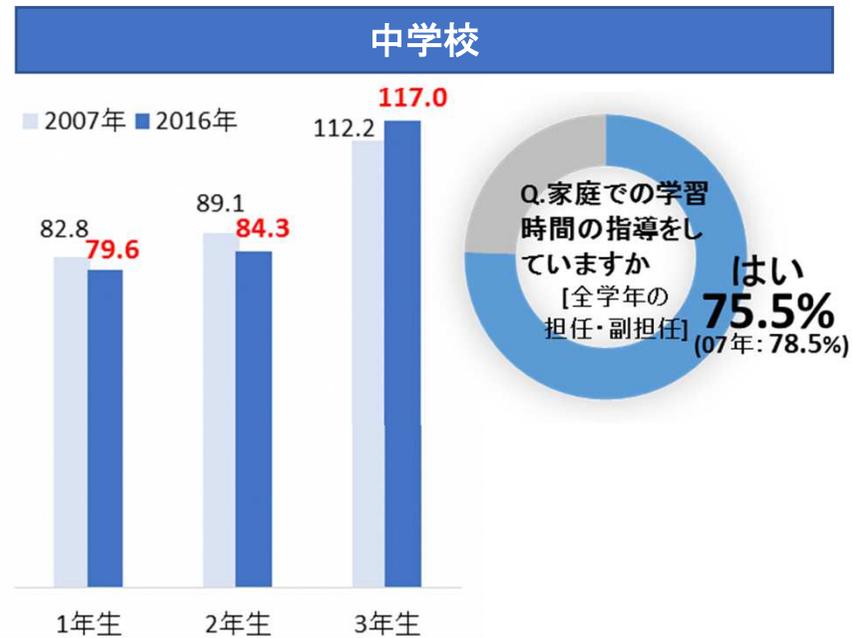
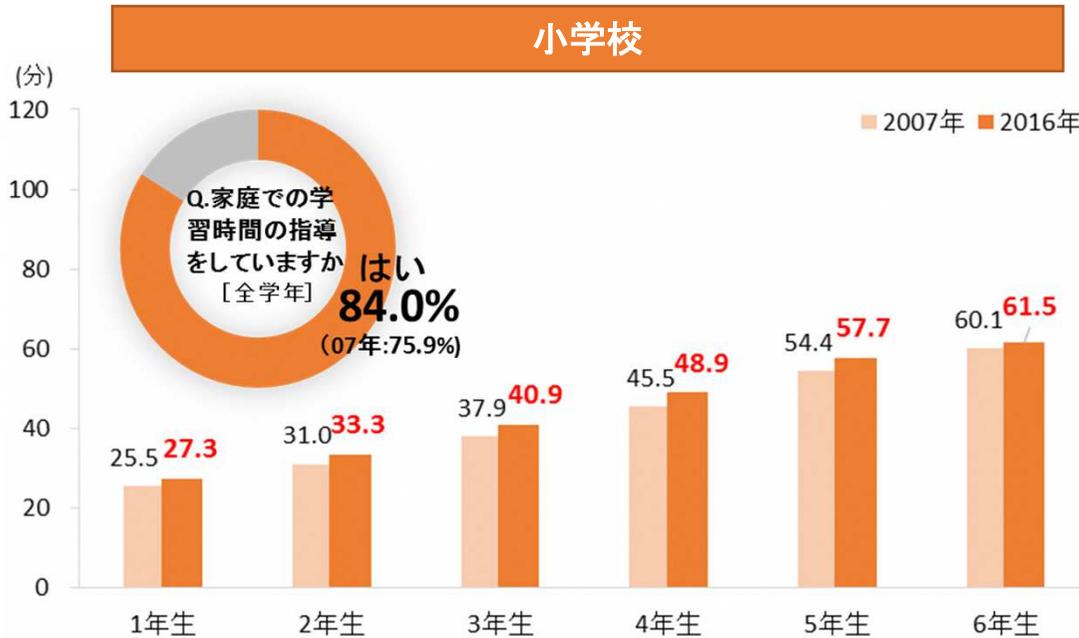


【参考】岡山市の状況

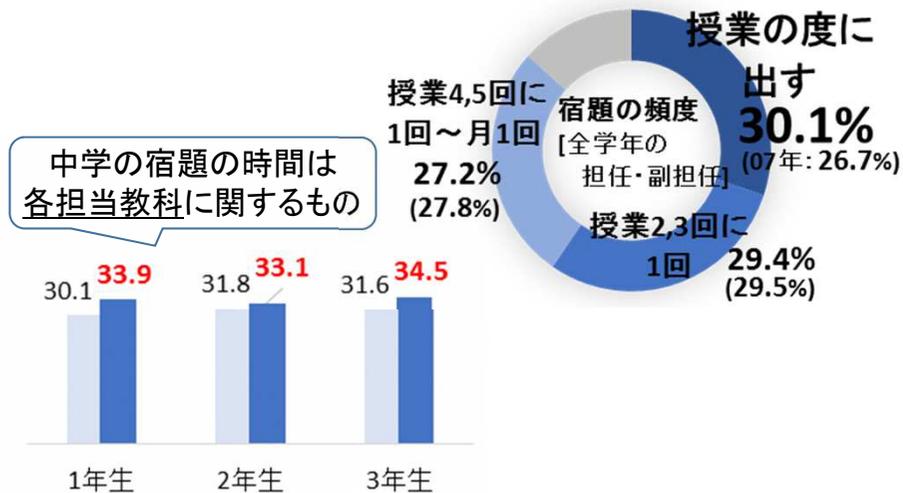
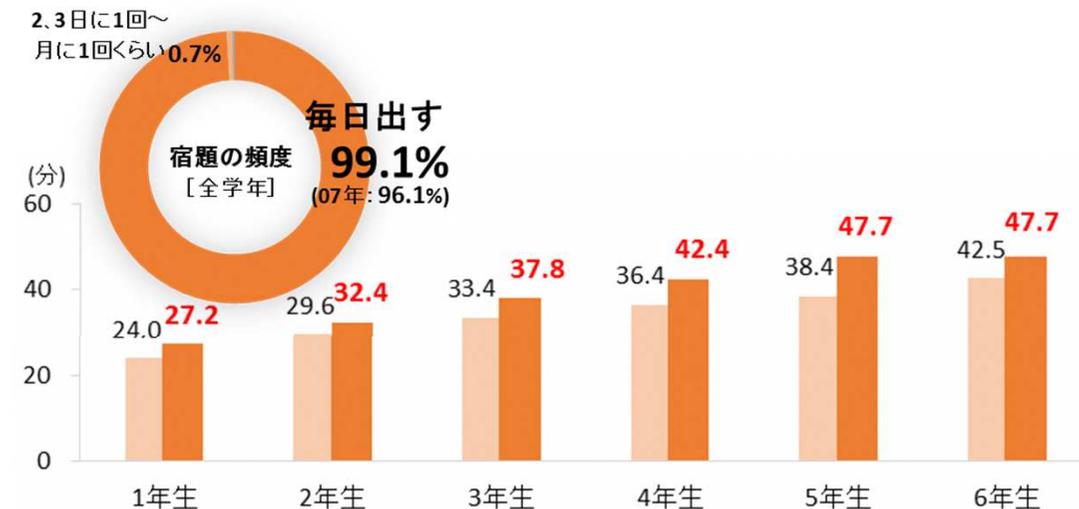
全国的な家庭学習に関するデータ

教員が指導している「家庭での学習時間(平均)」は、学年とともに増え、中3では約2時間。「宿題の時間(平均)」も増加傾向にある。中学校では教科間での調整をする学校も。

① 先生が指導している  
家庭学習時間

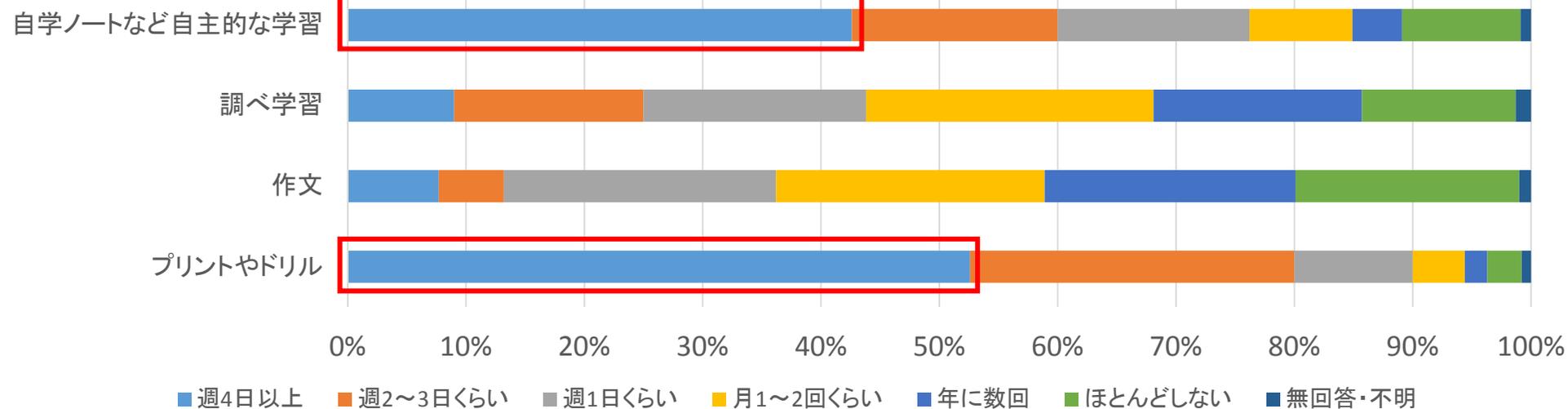


② 先生が出している  
宿題時間の目安

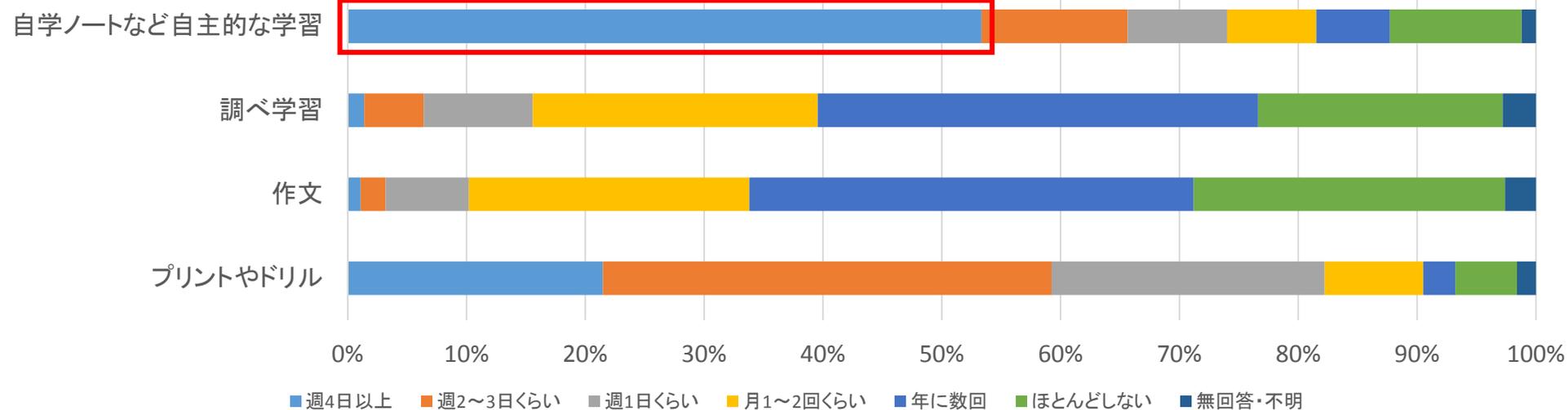


小学校では「プリントやドリル」と「自学ノートなど」が、中学校では「自学ノートなど」が大きな割合を占めている。

小学校



中学生



家庭学習は小学生，中学生ともに充実してきている。  
特に「自分で調べる」という行動が大きく増加している。

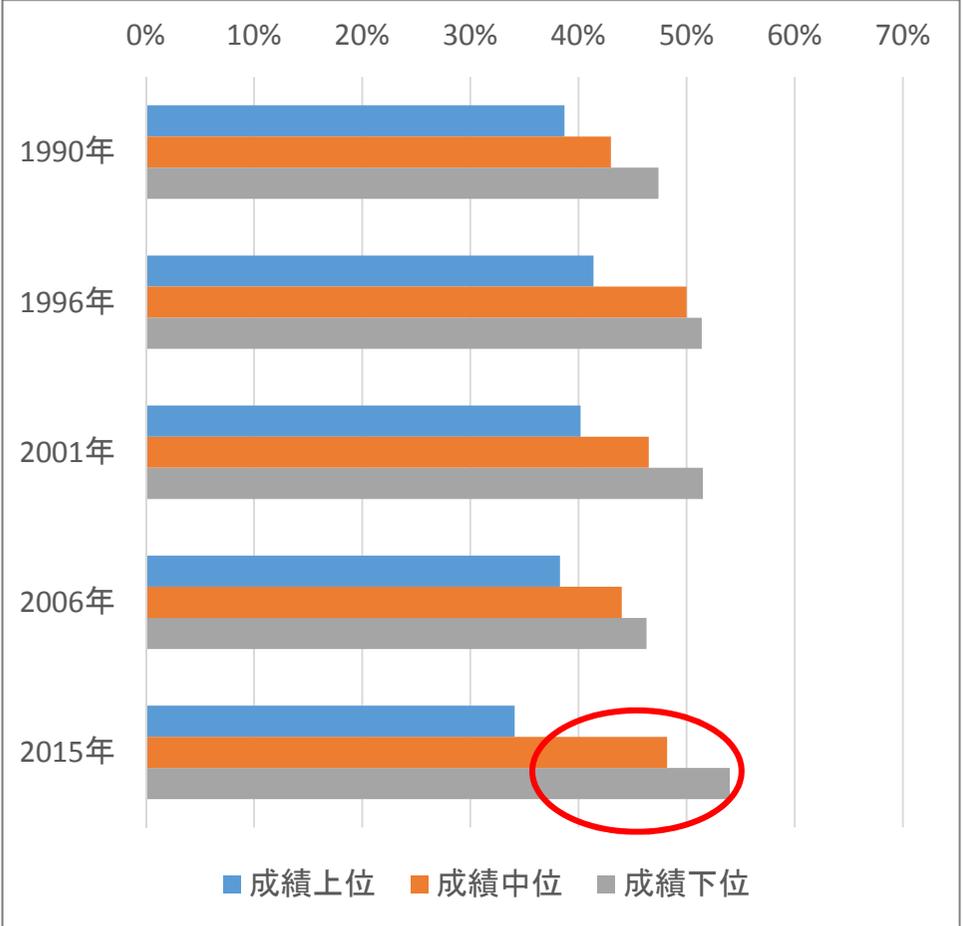
	予習をしてから授業を受ける		授業で習ったことは、その日のうちに復習する		計画を立てて勉強する	
	小学生	中学生	小学生	中学生	小学生	中学生
1990年	43.8%	34.2%	46.0%	40.2%	57.0%	34.8%
1996年	49.4%	37.6%	50.6%	48.8%	56.1%	46.7%
2001年	52.8%	34.9%	47.5%	41.8%	56.9%	44.1%
2006年	54.3%	42.2%	52.3%	48.9%	62.5%	50.9%
2015年	64.4%	48.1%	65.5%	57.0%	73.5%	61.2%

	授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる		自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	
	小学生	中学生	小学生	中学生
1990年	35.7%	33.3%	62.3%	0.0%
1996年	55.9%	41.7%	66.4%	0.0%
2001年	54.8%	39.2%	63.4%	59.1%
2006年	57.4%	42.8%	64.8%	58.0%
2015年	72.8%	58.0%	73.2%	73.0%

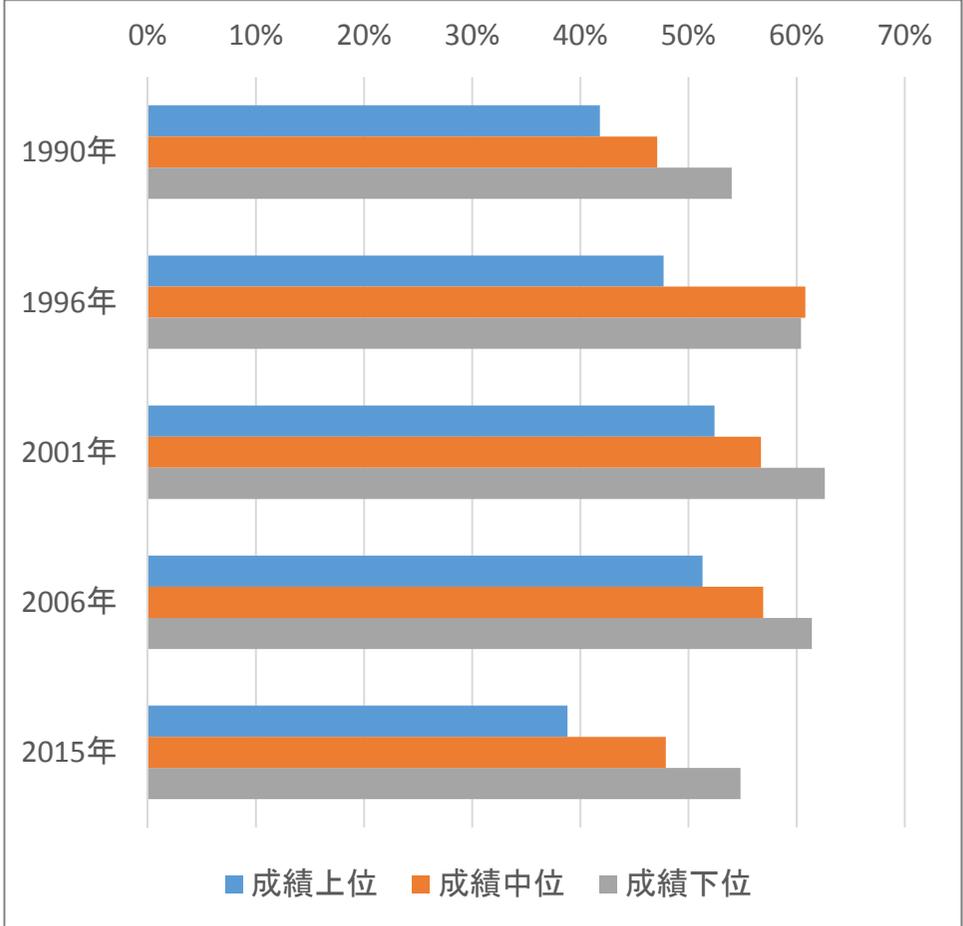
※値は、「あてはまる」「まああてはまる」の合計の比率

中学生は全体として改善傾向にあるが、小学生は成績層による差が広がっている。小学生の家庭内の学習環境等に変化が出てきたのではないかと考えられる。

小学生



中学生

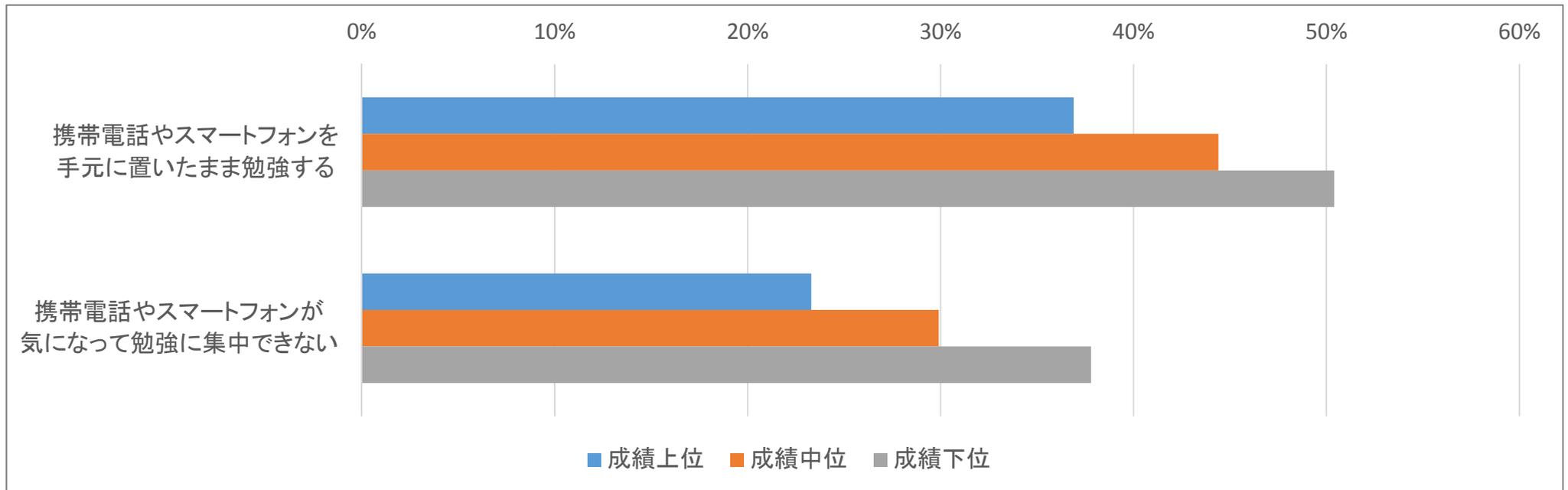


※値は、「あてはまる」「まああてはまる」の合計の比率  
 ※「成績」は自己評価による

(ベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査(2015)」より)

成績層と携帯電話やスマートフォンの扱いには相関がある。

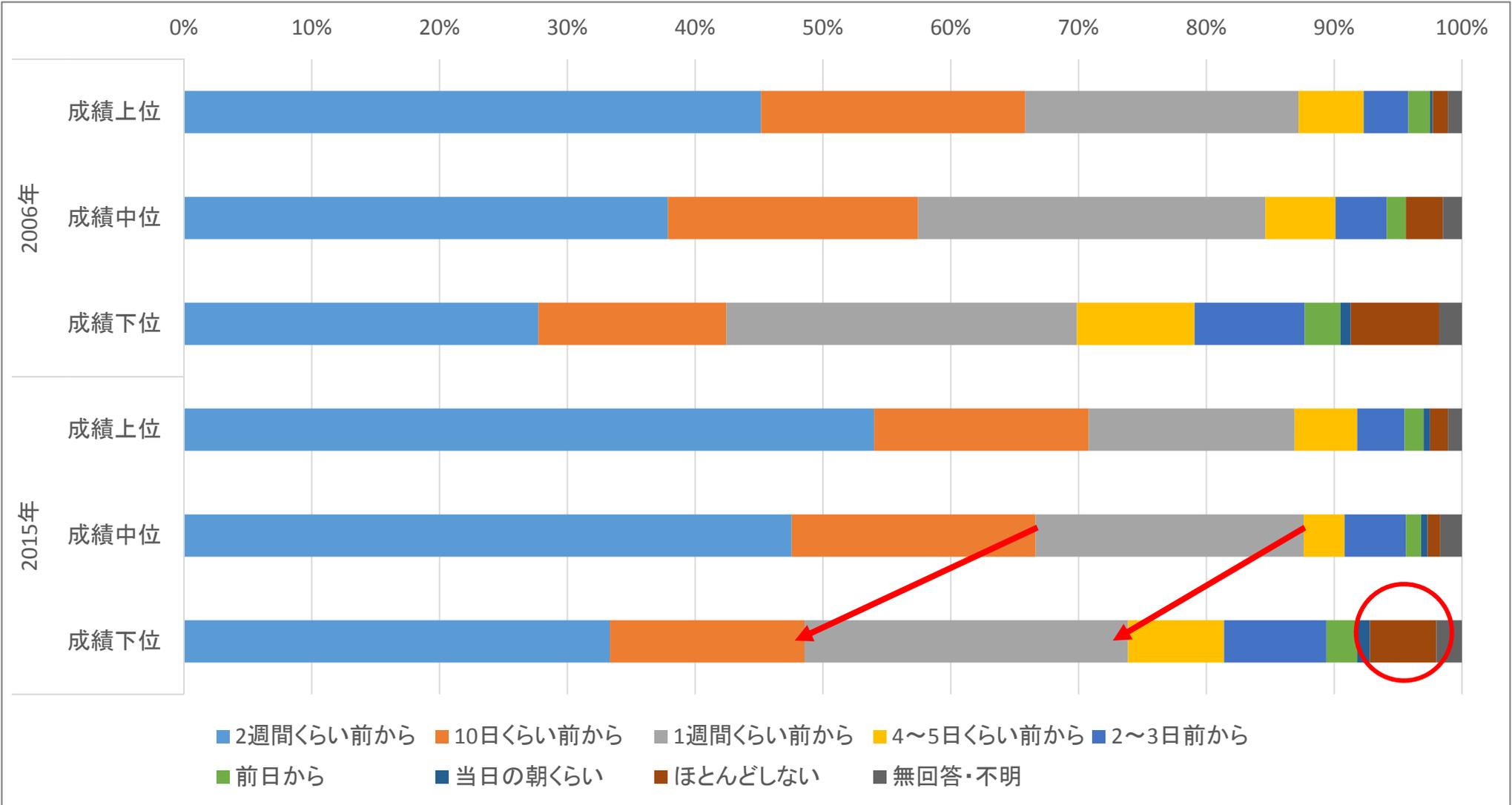
## 中学生



※値は、「あてはまる」「まああてはまる」の合計の比率  
※「成績」は自己評価による

成績上位中位層の約7割は10日以上前から開始している一方、成績下位層は約5割。また5.2%の「ほとんどしない」生徒がいる。

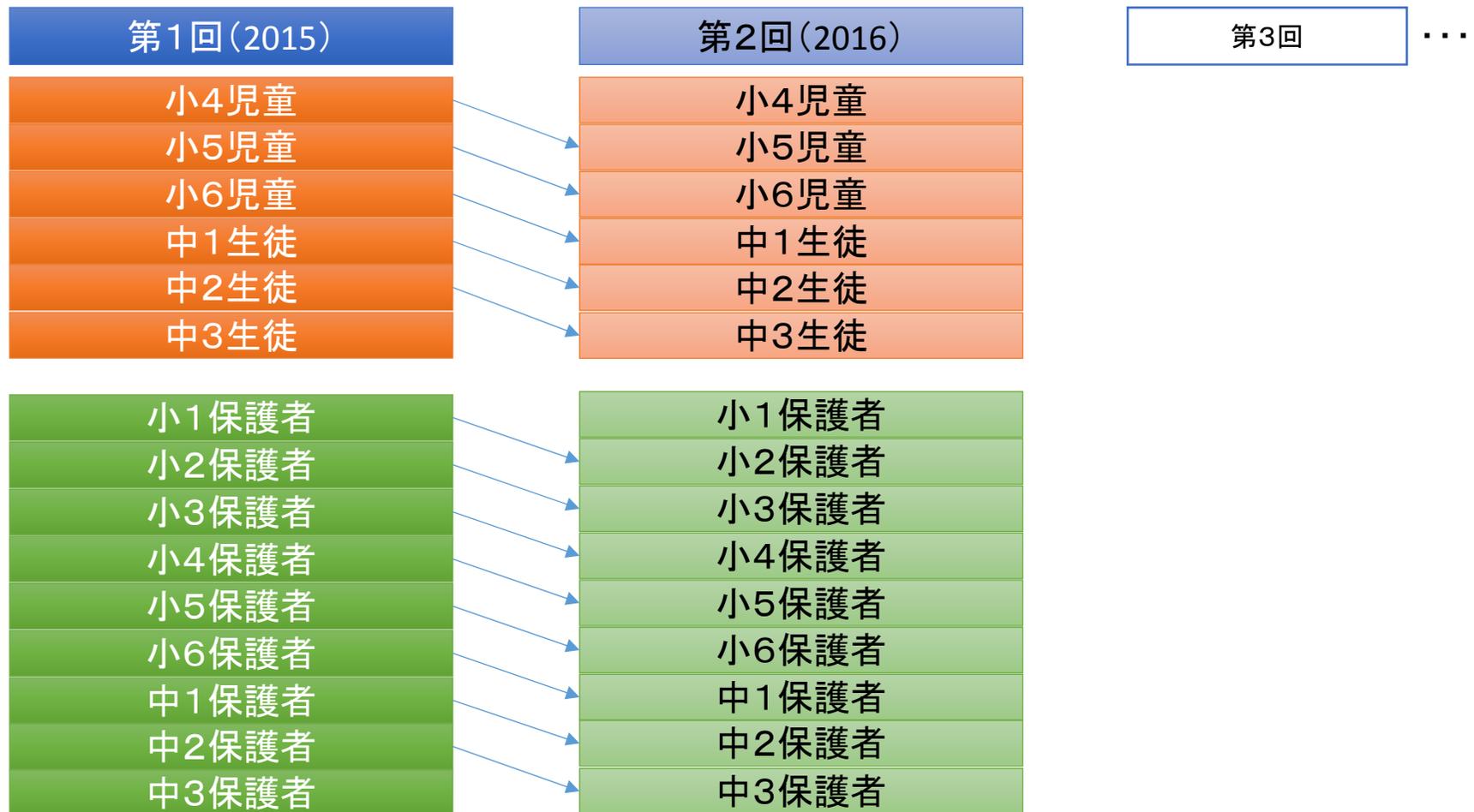
## 中学生



※「成績」は自己評価による

(ベネッセ教育総合研究所「第5回学習基本調査(2015)」より)

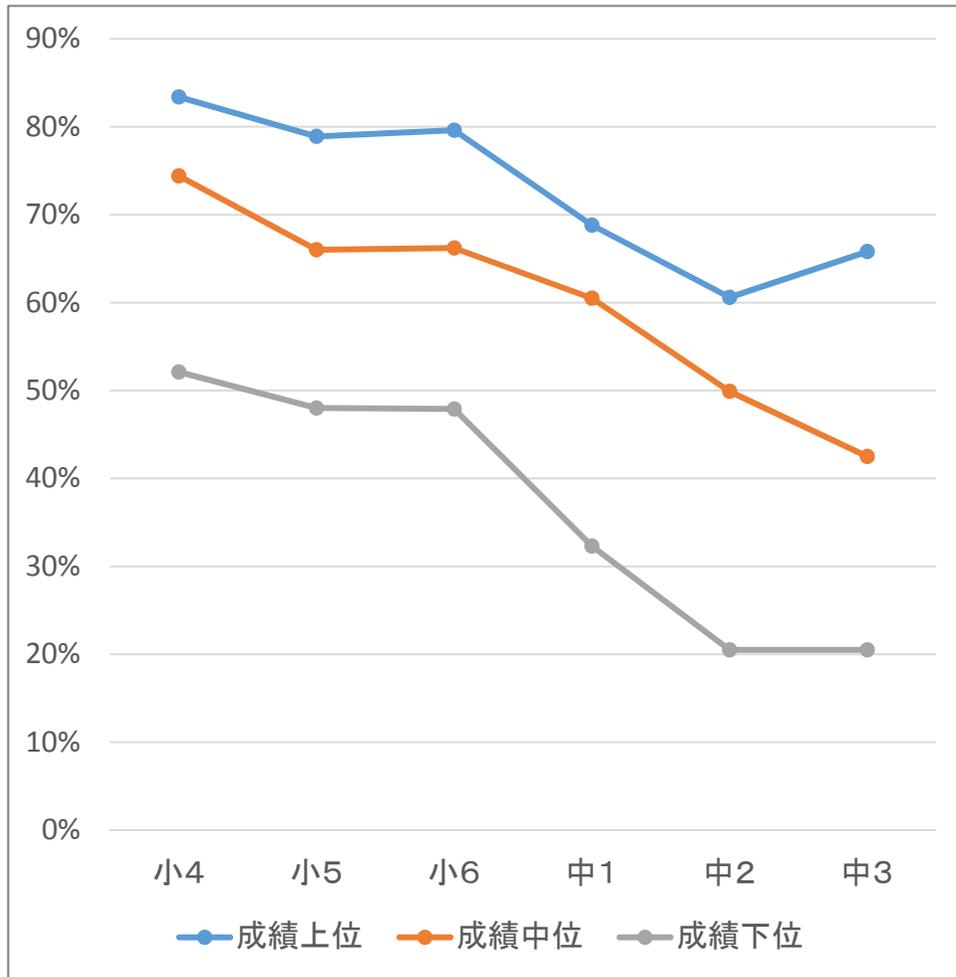
東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、2014年1月に、「子どもの生活と学び」の実態を明らかにする共同研究プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、子どもの生活や学習の状況、保護者の子育ての様子を複数年にわたって調査し、それらが子どもの成長とともに、どのように変化するのかを明らかにするものです。



学習に向かうには「勉強が好き」という気持ち大切です。

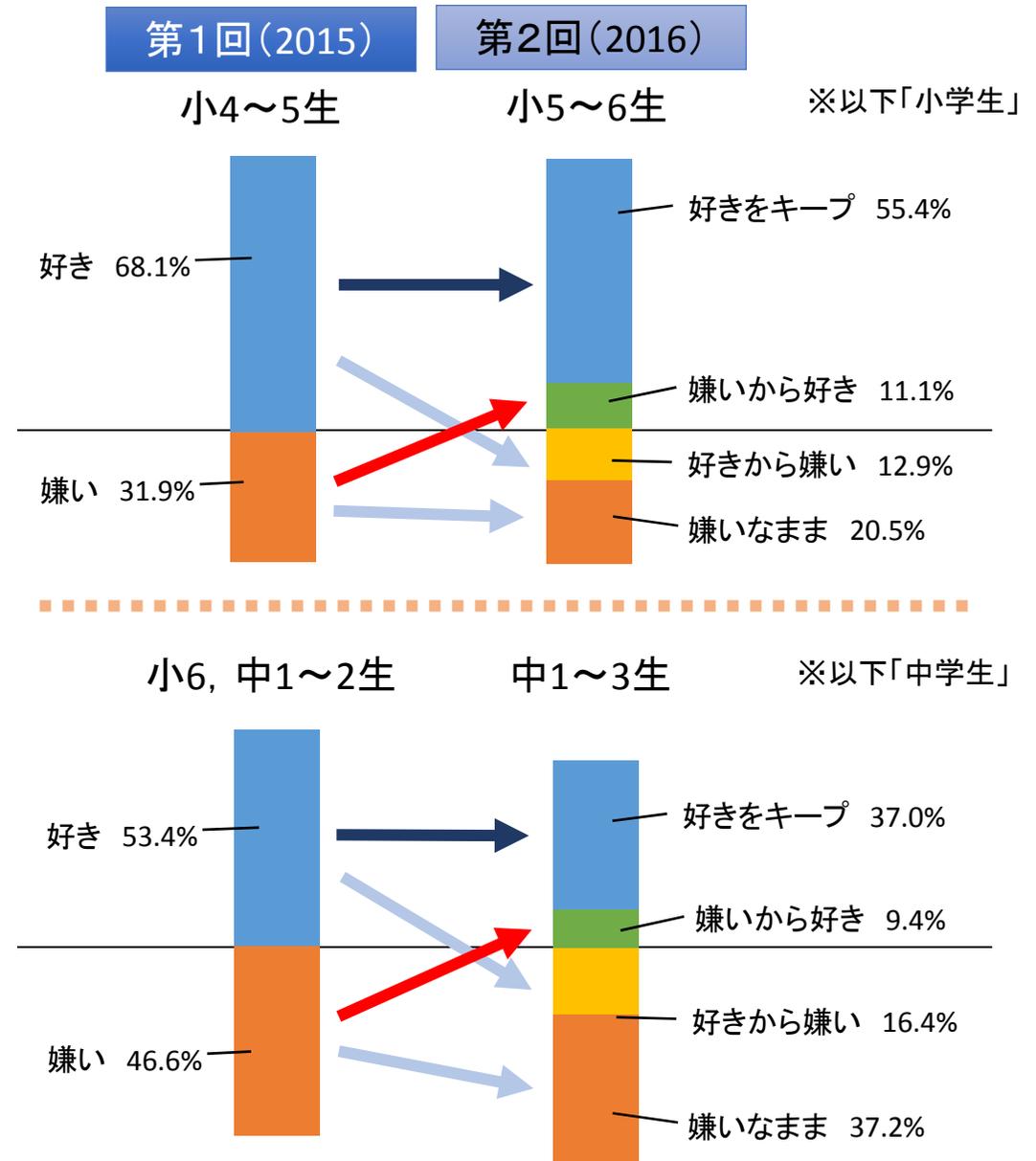
ここでは、特に「嫌い」から「好き」に変わった子どもに着目し、保護者がどのように働きかけたのか、どのような学習をしてきたのか、などを探ります。

## ＜勉強が好きな児童生徒の割合(2016)＞

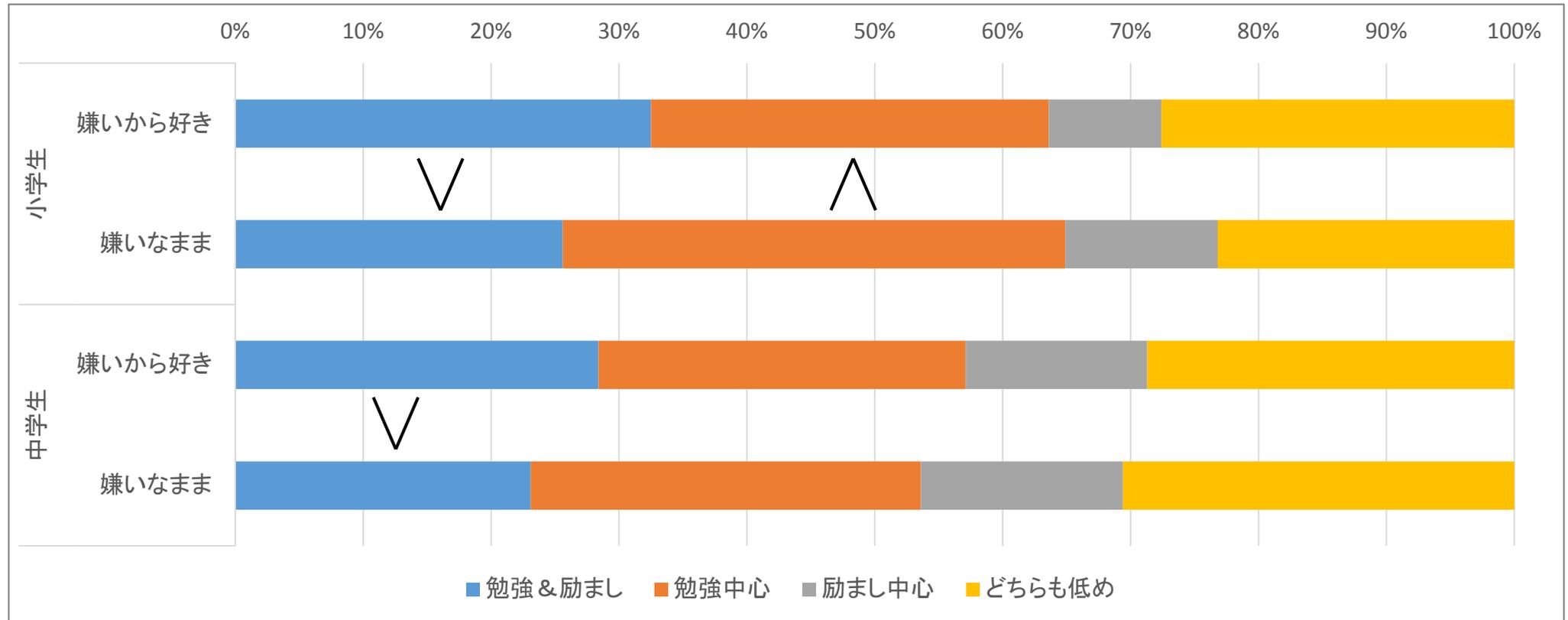


※値は、「とても好き」「まあ好き」の合計の比率

※「成績」は自己評価による



ほめたり励ましたりするだけ、あるいは勉強を教えるだけ、ではなく、励ましながら勉強を教えることが、「嫌い」から「好き」になるのに効果的。



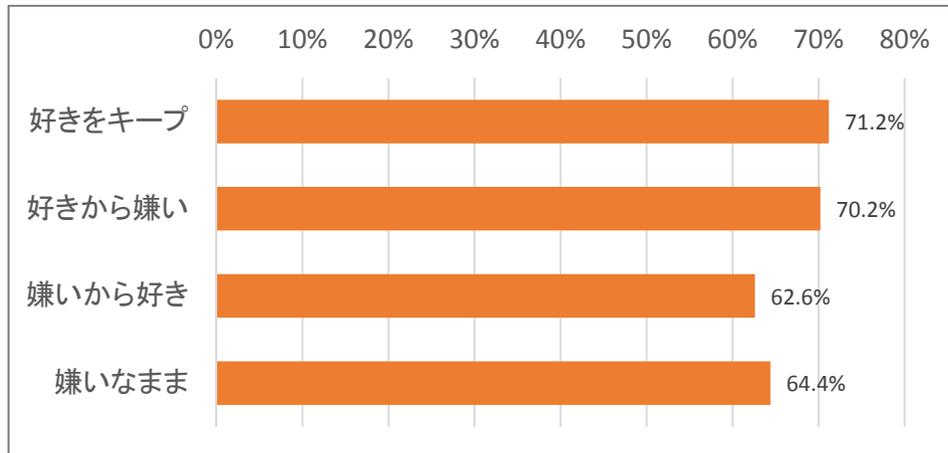
※下の質問への回答状況を基に保護者を4群に分けた。

「勉強」	勉強を教える 勉強のやり方を教える 勉強のおもしろさを教える	「励まし」	いいことをしたときにほめる 失敗したときにはげます 子どもがやりたいことを応援する
------	--------------------------------------	-------	---

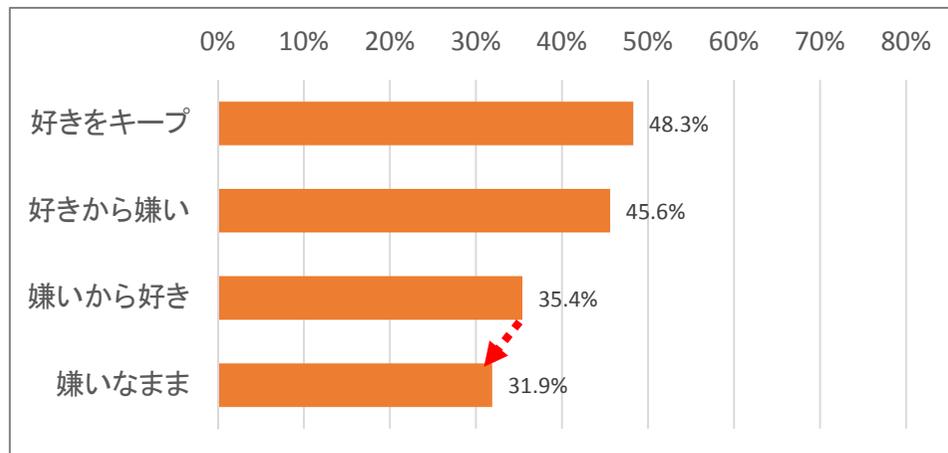
4つのセグメントの児童生徒の保護者が、どのように勉強を教えているかを見ると、特に中学生で、「勉強のおもしろさを教える」ことが好き嫌いに影響を及ぼしていることがわかる。

## 小学生

### 【勉強のやり方を教える】

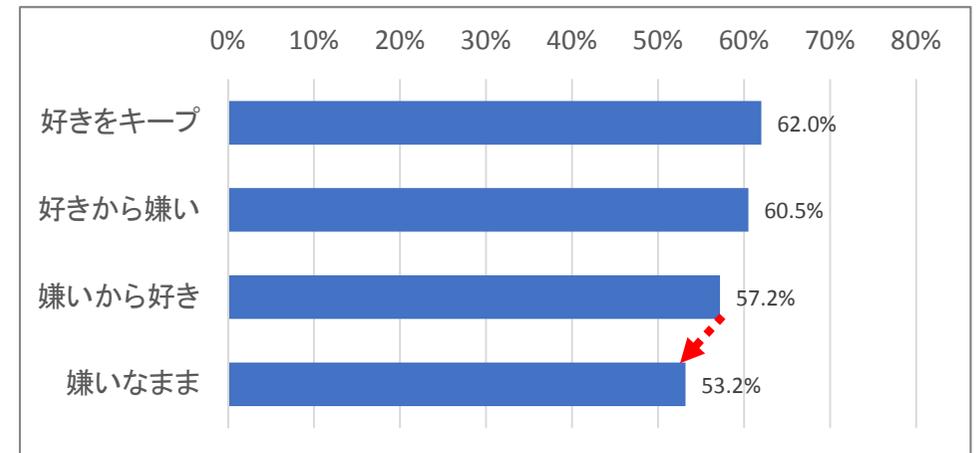


### 【勉強のおもしろさを教える】

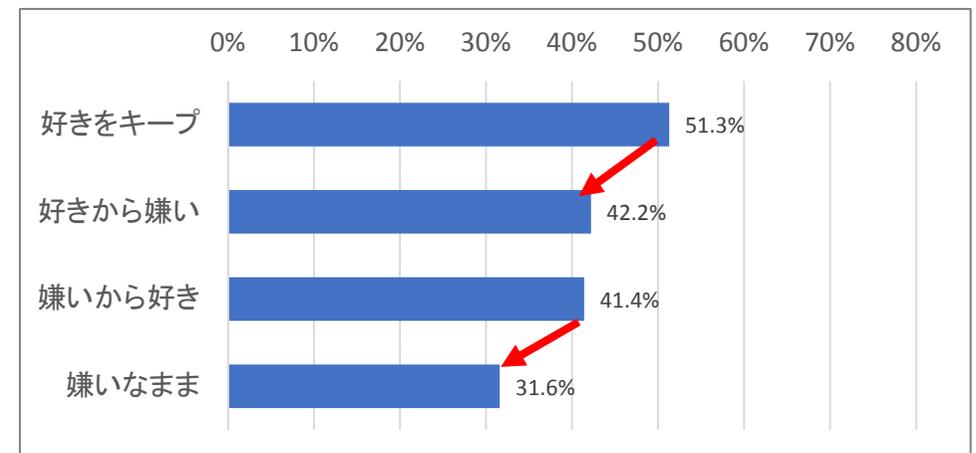


## 中学生

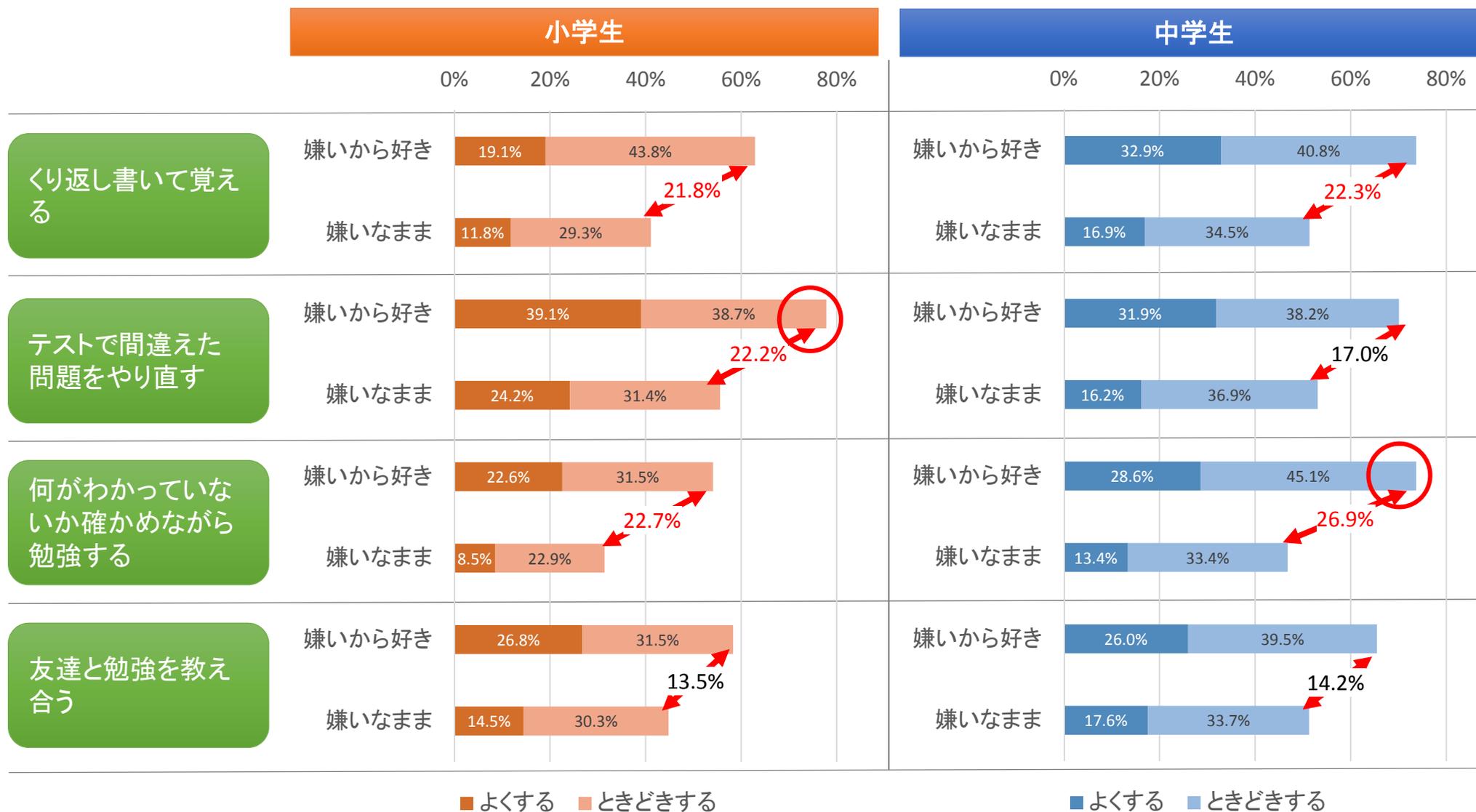
### 【勉強のやり方を教える】



### 【勉強のおもしろさを教える】

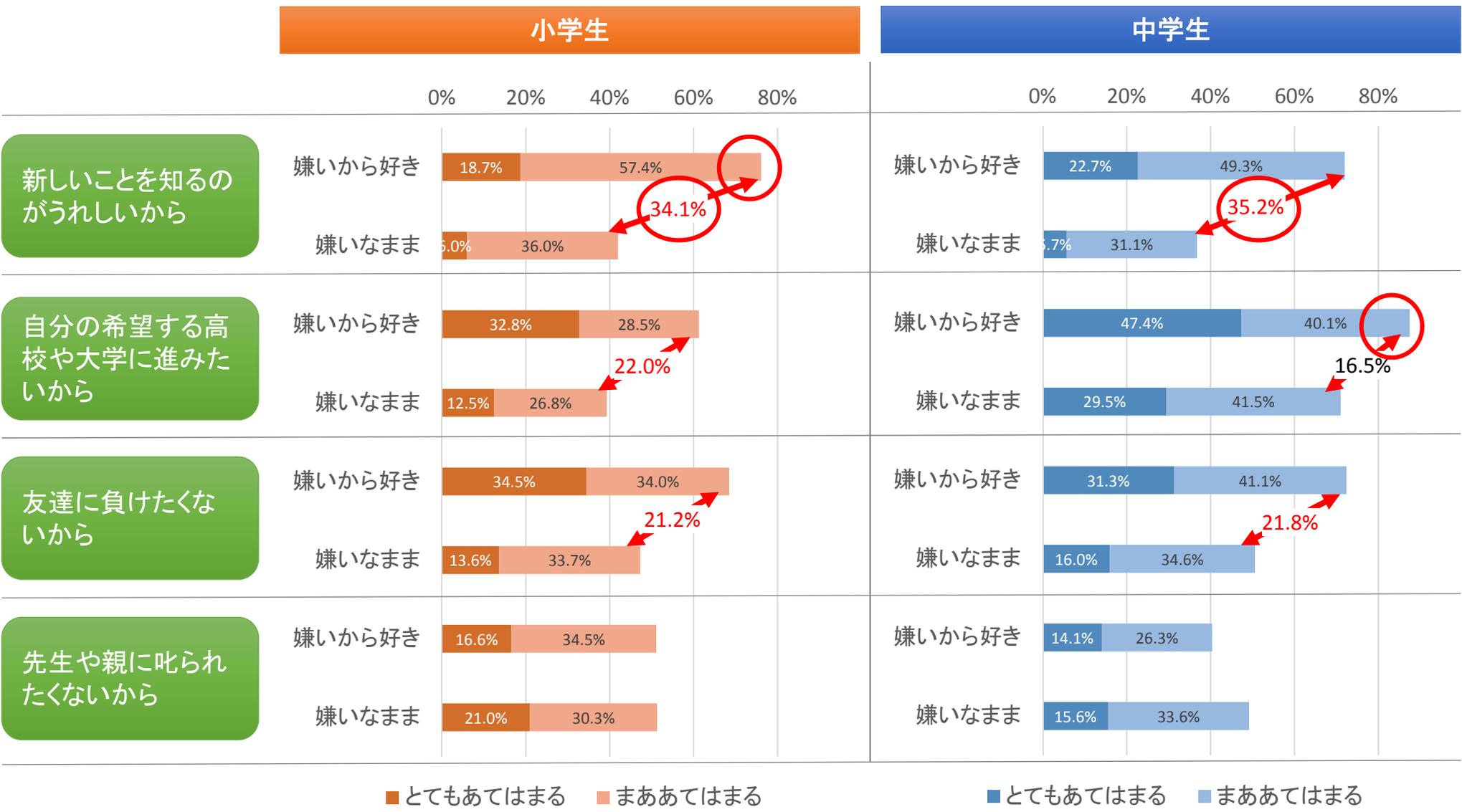


勉強が「嫌いから好き」になった子どもは、「嫌いなまま」の子どもより学習方略を活用している比率が高い。小学生では「テストで間違えた問題をやり直す」、中学生では「何がわかっていないか確かめながら勉強する」ことが「嫌いから好き」になることにつながりそうである。



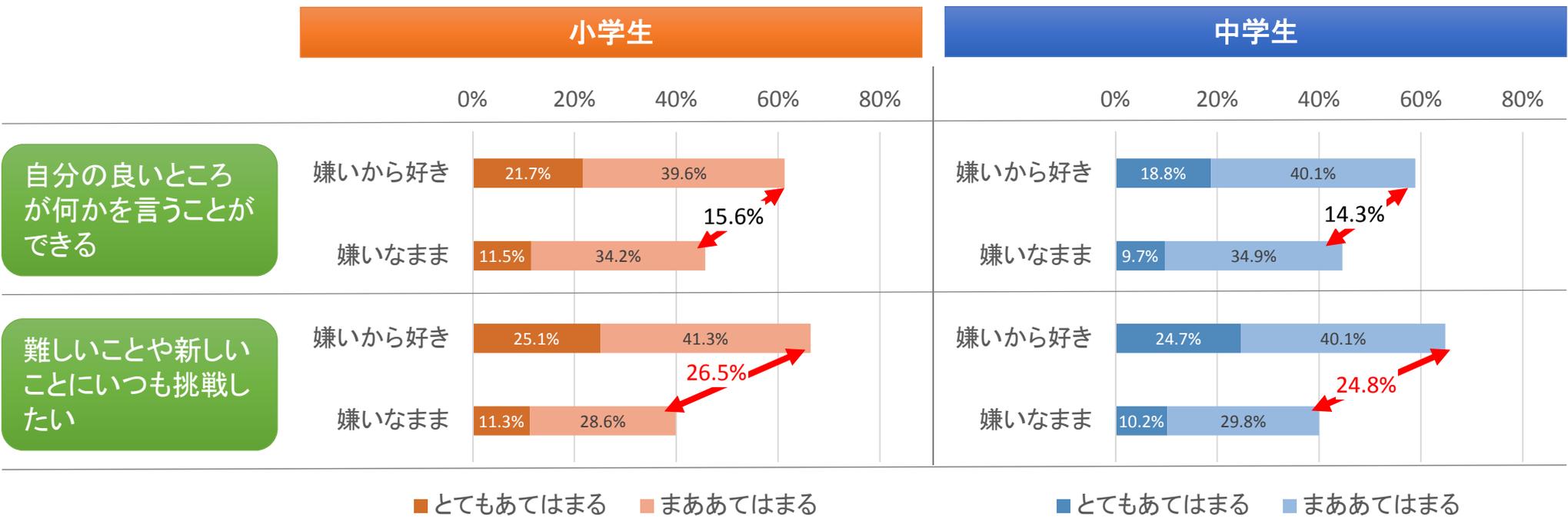
(東京大学社会科学研究所 ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2016」より)

新しいことを知る喜びの体験が「嫌いから好き」になる動機になる可能性が高い。叱ることは逆効果にもなりうる。



(東京大学社会科学研究所 ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2016」より)

学習に限らない子どもの肯定的な自己評価と勉強の好き嫌いの変化は連動している。



(東京大学社会科学研究所 ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査2015-2016」より)

学校

保護者

宿題の量的マネジメント

主体性を引き出す宿題  
(自学ノート)

新しいことを知る喜びの  
体験

勉強のやり方(学習方略)

勉強のおもしろさ

励まし

家庭学習環境整備  
(スマホ・テレビ)

自己肯定感

児童・生徒

# 教職員の勤務負担軽減について

## 要因

## 対策

## 今後の方向性

調査回答・報告書等の作成

- 調査文書の3割削減
- 教育総合調査
- 文書受信システム
- 学校問題相談窓口

支援の必要な児童生徒・家庭への対応

- 特別支援教育支援員  
習熟度別サポーター  
岡山っ子スタート・サポーター
- スクールカウンセラー  
不登校児童生徒支援員

部活動指導

- 部活動指導員
- 休養日週1日以上の設定 《-10h/月》

公簿等の書類作成

- 校務支援システム 《-14h/月》
- ICTヘルプデスク

会議・打合せ等

- 校内での見直し、精選

学校行事の準備・地域行事等への参画

- ボランティアの活用

授業準備・教材研究

- 研修・OJTの活用

印刷・徴収金等の事務処理等

- 学校業務アシスト職員 《-4h/月》

「日本型学校教育」の課題  
(広範な役割)

学校の業務削減・外部への啓発

教職員の意識の課題  
(子どものために・時間外)

勤務時間の在り方に関する意識改革

夏季休業中の学校閉庁日の設定(試行)

ワーキンググループでの協議

定時退校日の設定

## 時間外勤務の状況

【岡山市】H29  
 (小)43h45m/月 ; 前年比-2h33m  
 (中)88h24m/月 ; 前年比 -12m

---

平成29年度第2回岡山市総合教育会議

# 調査・分析ご報告資料

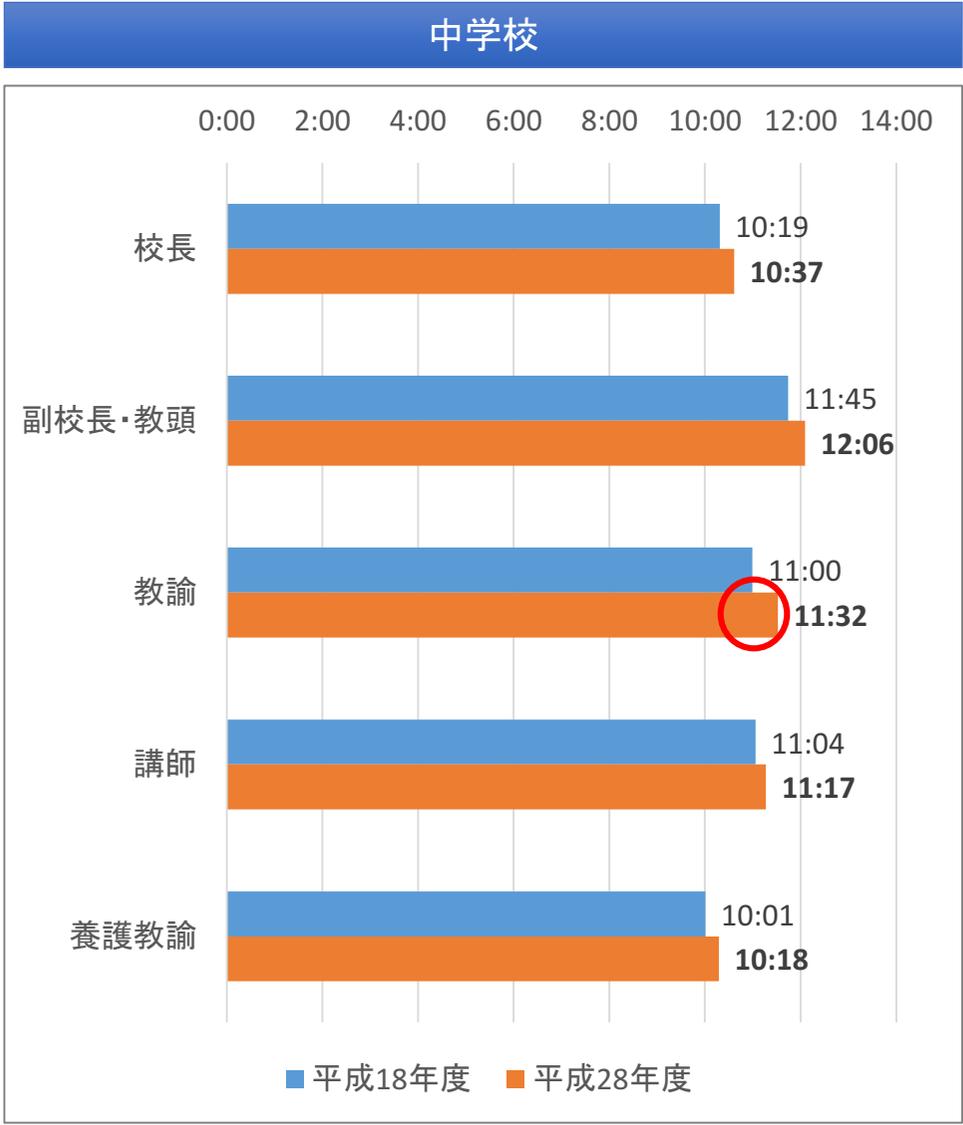
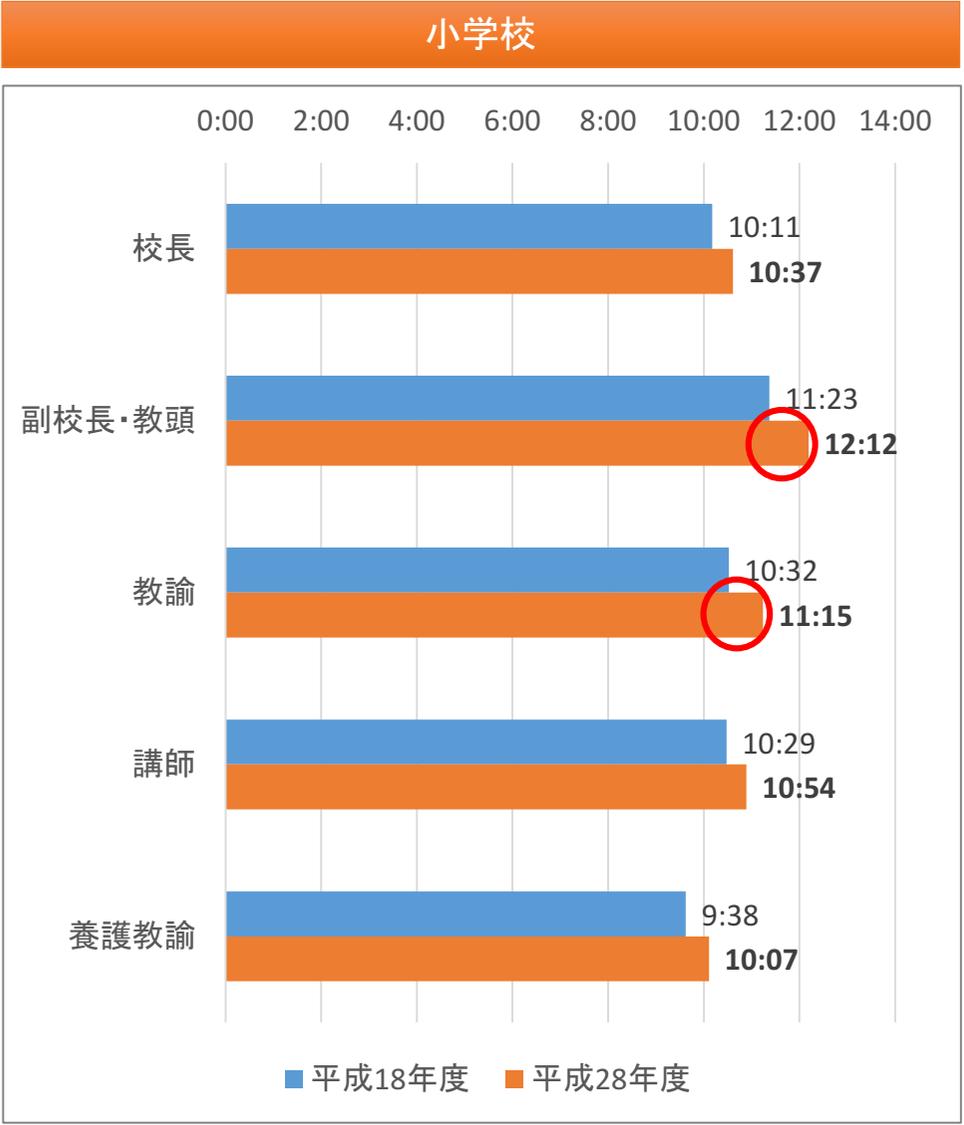
## 2. 教職員の勤務負担軽減

---

平成30年1月25日  
株式会社ベネッセコーポレーション

- 
- |            |                                  |
|------------|----------------------------------|
| 平成29年4月28日 | 「教員勤務実態調査（平成28年度）の集計（速報値）について」公表 |
|------------|----------------------------------|
- 
- |            |   |
|------------|---|
| 平成29年6月22日 | 中央教育審議会において、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（学校における働き方改革特別部会）」大臣諮問 |
|------------|---|
- 
- |            |                        |
|------------|------------------------|
| 平成29年8月29日 | 「学校における働き方改革に係る緊急提言」発表 |
|------------|------------------------|
- 
- |             |   |
|-------------|---|
| 平成29年12月22日 | 「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）」発表 |
|-------------|---|
- 
- |             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 平成29年12月26日 | 「学校における働き方改革に関する緊急対策」発表 |
|-------------|-------------------------|
-

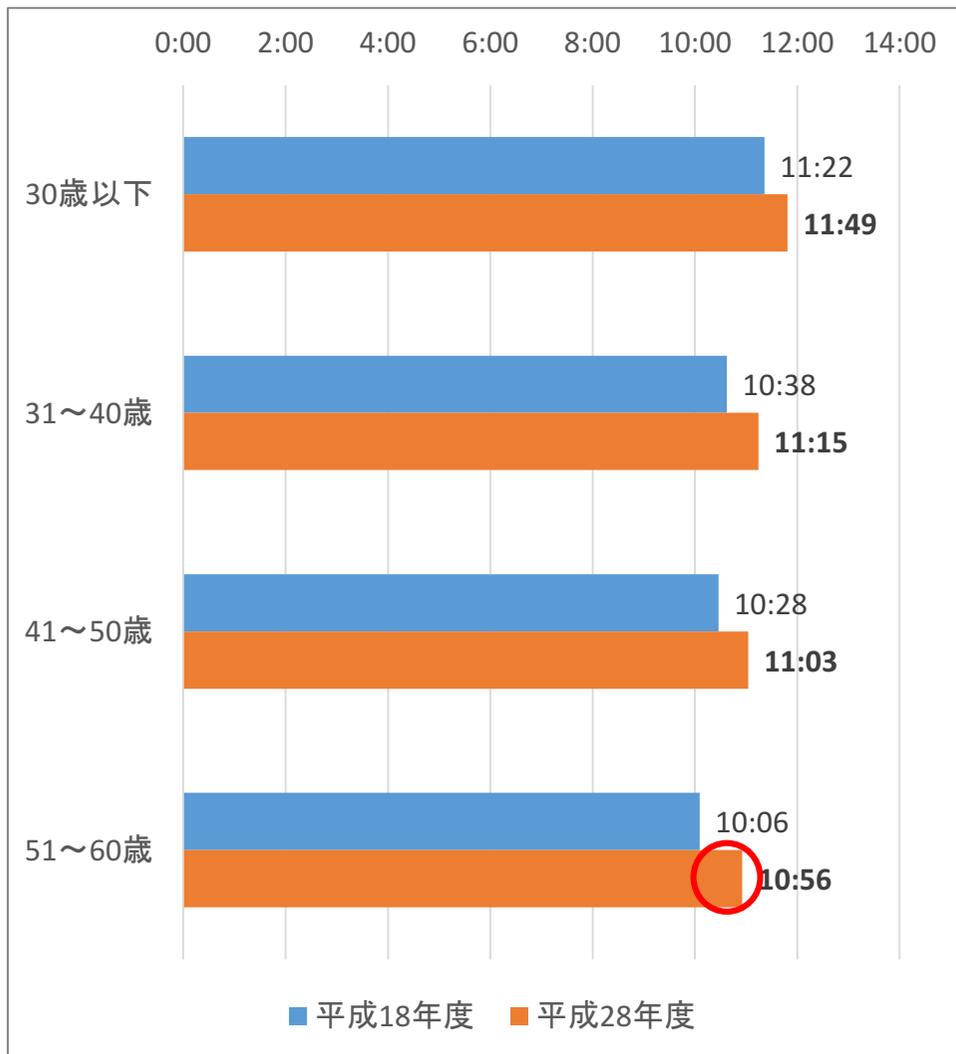
平日の勤務時間について、職種別に平成18年度と比較すると、いずれの職位も増えているが、小学校では「副校長・教頭」「教諭」、中学校では「教諭」において、勤務時間の増加幅が特に大きい。



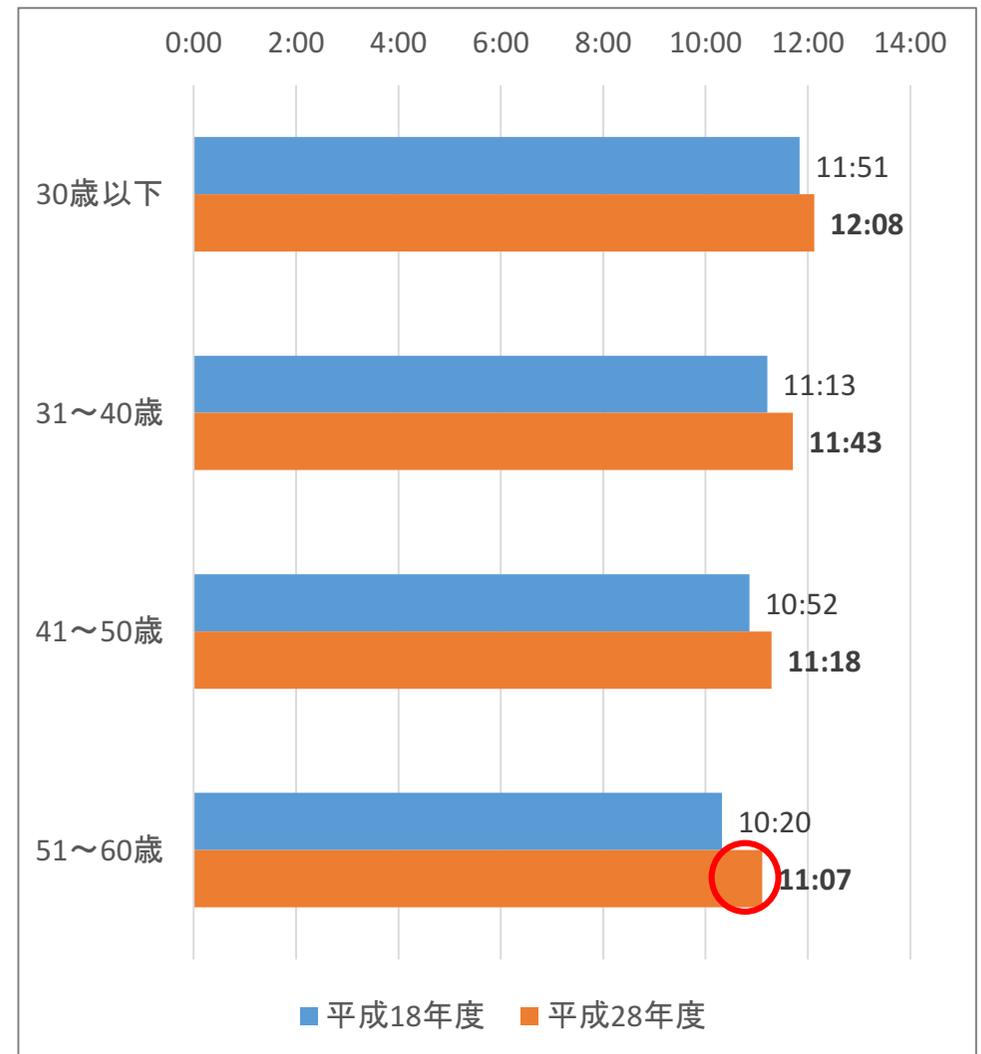
(平成29年4月 文部科学省「教員勤務実態調査(平成28年度)の集計(速報値)について」より)

平成18年度, 28年度ともに, 30歳以下の学内勤務時間が一番長い。  
どの年齢層も増えているが, 特に51~60歳での増加幅が大きい。

## 小学校

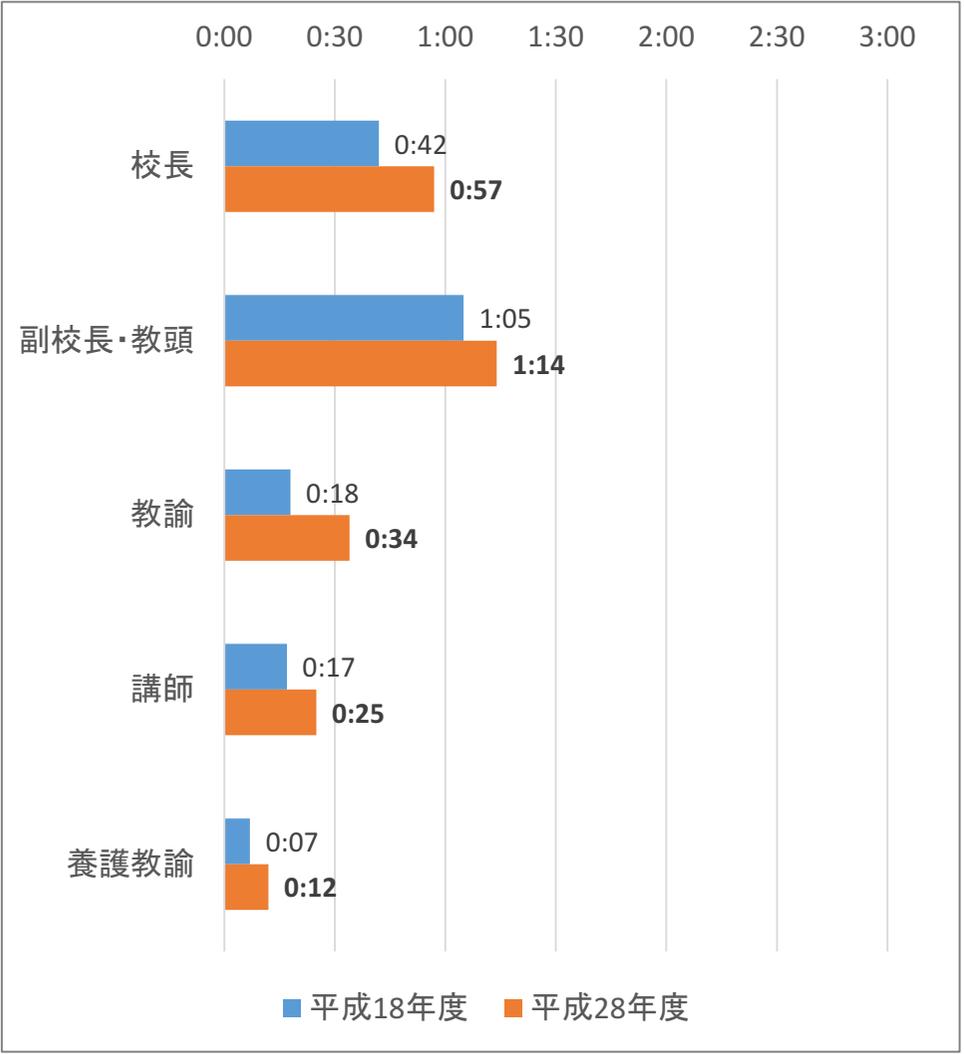


## 中学校

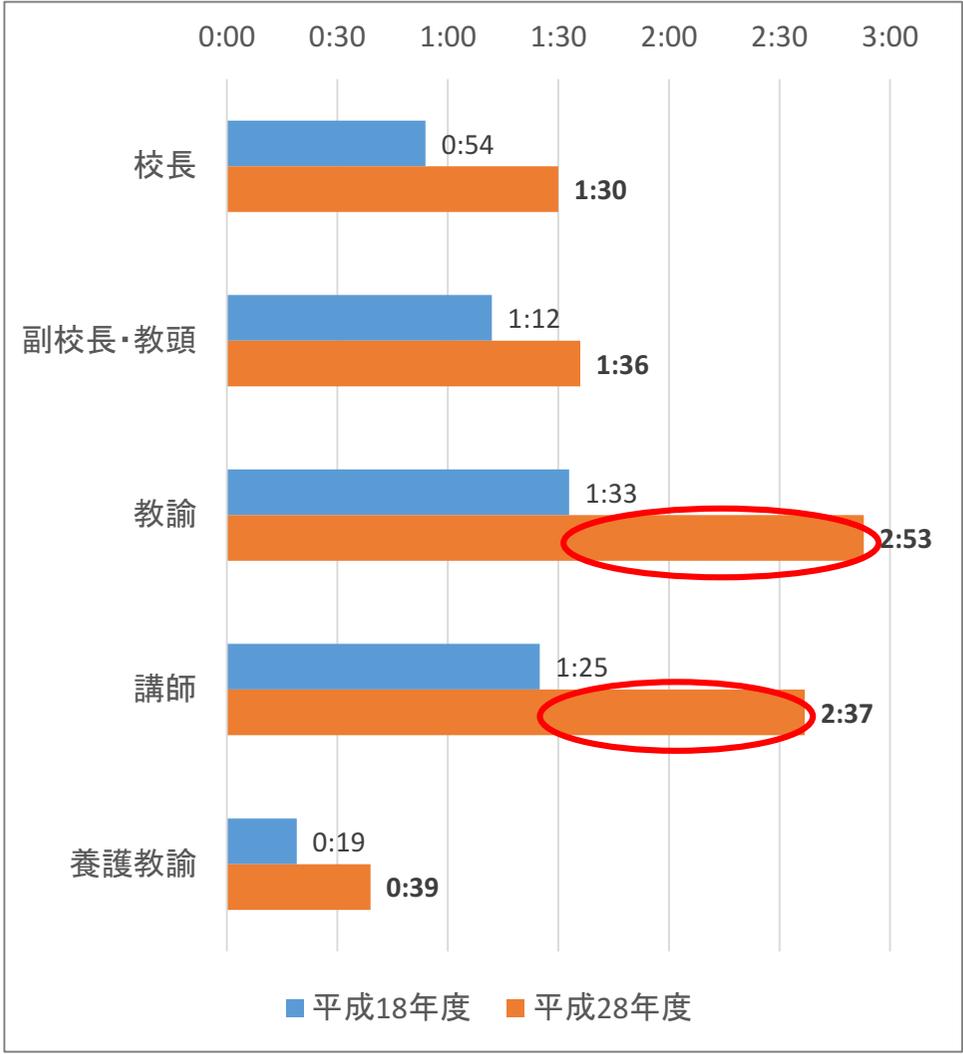


土日の勤務時間の増加は、中学校、特に「教諭」「講師」において顕著である。

## 小学校



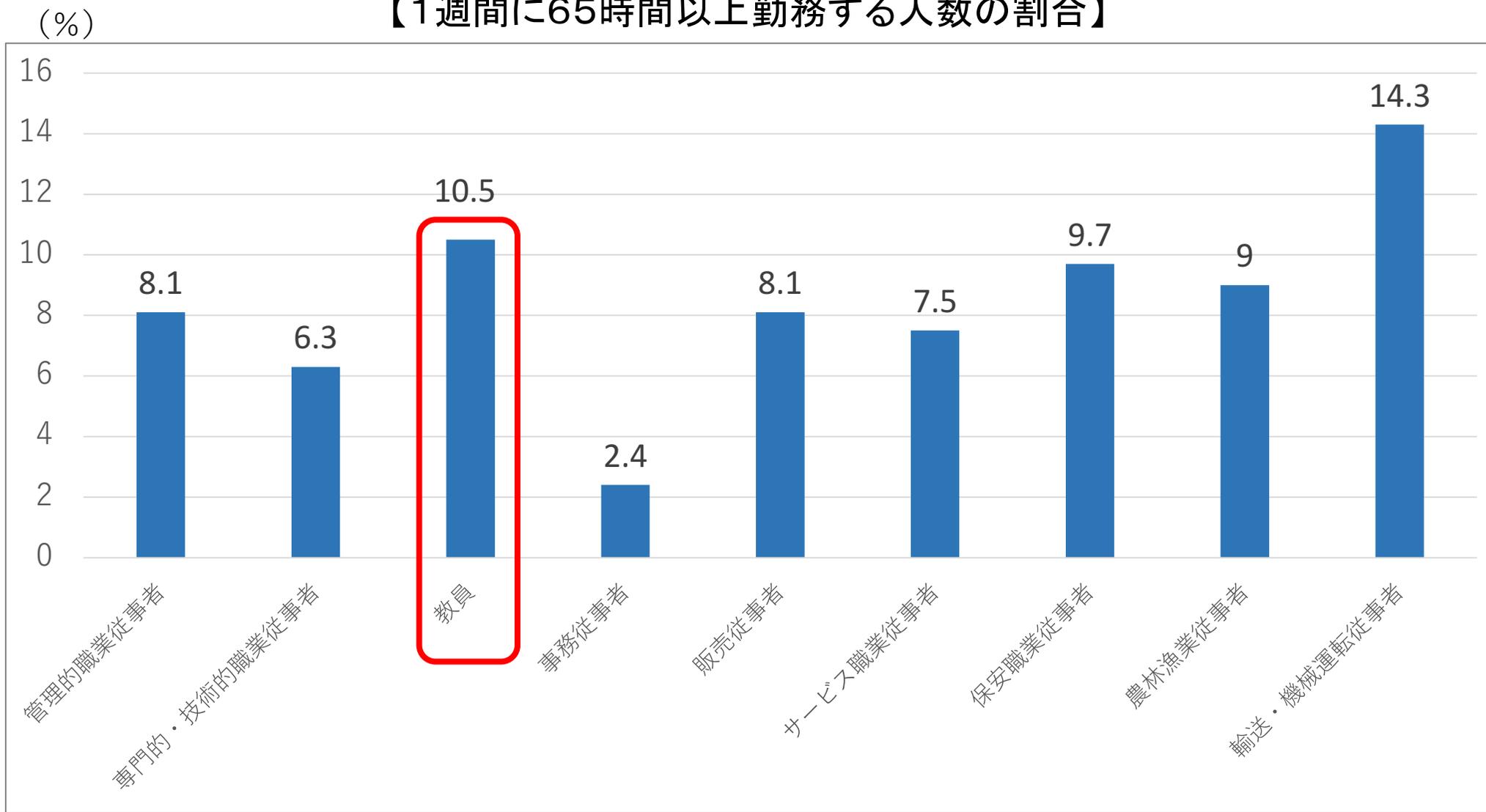
## 中学校



(文部科学省「教員勤務実態調査(平成28年度)」より)

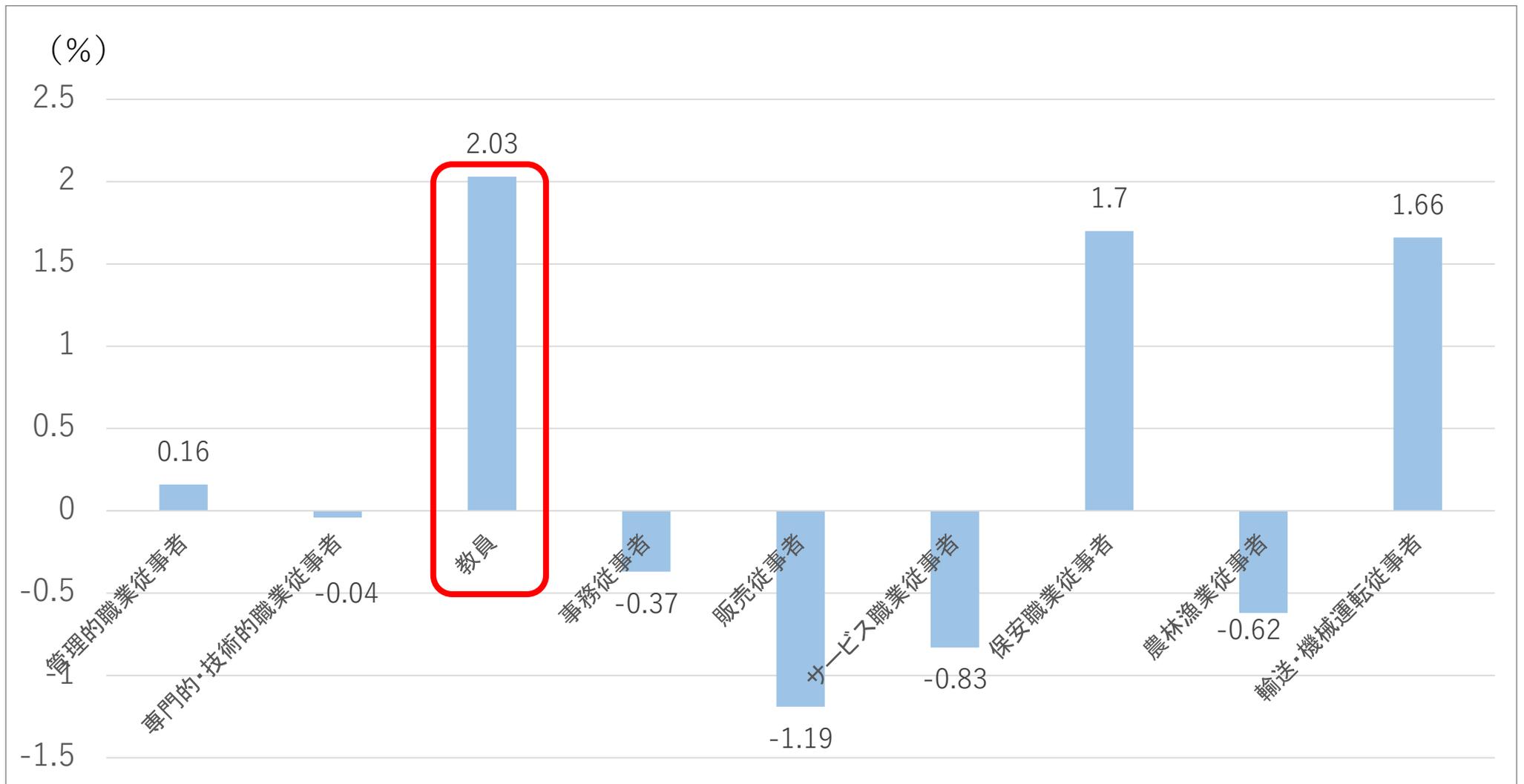
1週間に65時間以上勤務する教員の割合は、他の職業と比較すると高いと言える。

## 【1週間に65時間以上勤務する人数の割合】

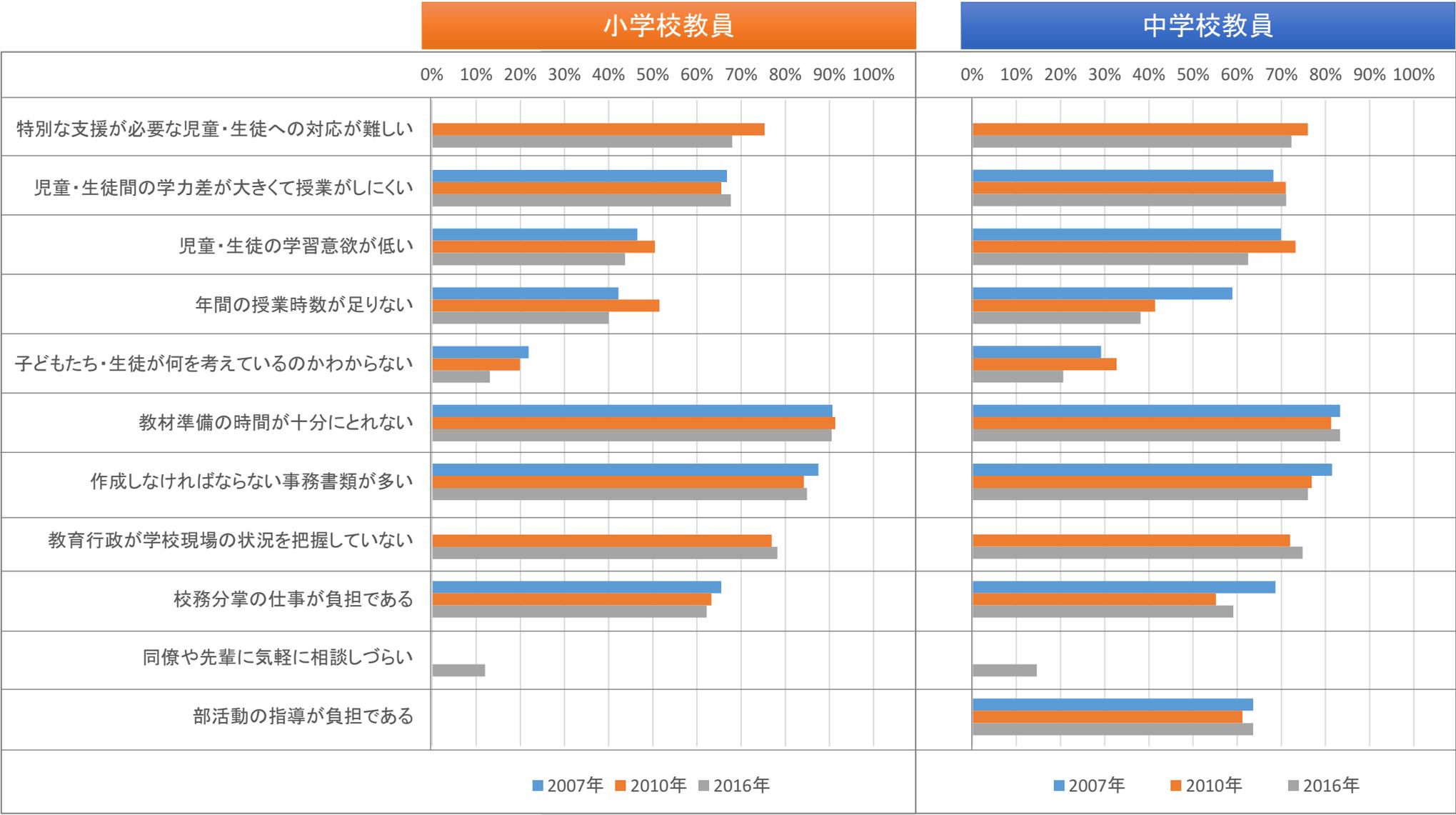


平成19年から平成24年にかけて、65時間以上勤務する割合は、全体的には減少傾向にある中、教員は他の職業に比べ最も大きく増加。

【1週間に65時間以上勤務する人数の割合の変化(平成19年からの増減)】



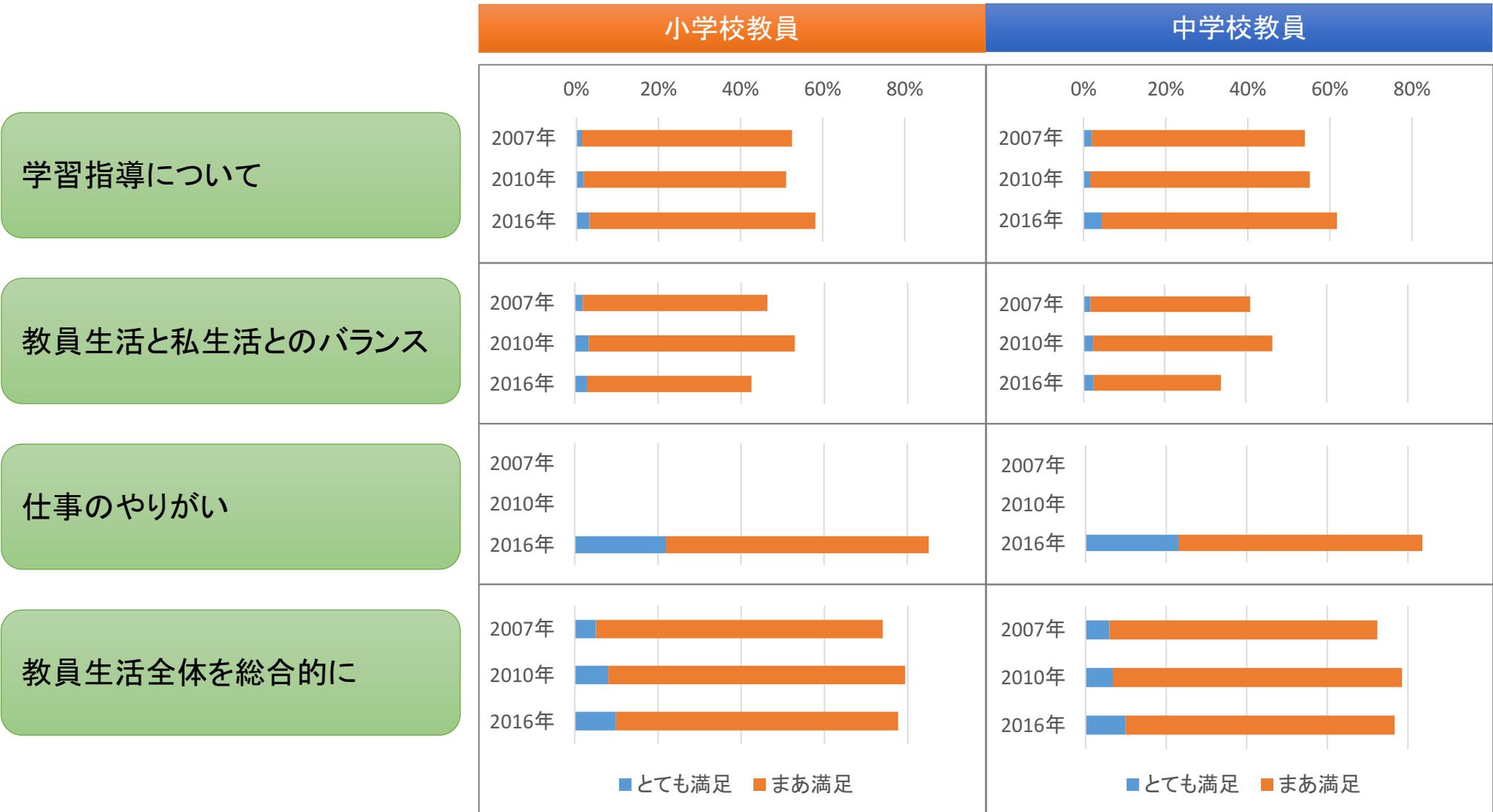
小・中学校ともに、「教材準備の時間が十分にとれない」「作成しなければならない事務書類が多い」など日々の業務に関する悩みが上位にあり、2010年から傾向は変わっていない。



※数値は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の割合  
 ※データの無い年度は、該当質問の調査なし

(ベネッセ教育総合研究所「第6回学習指導基本調査2016」より)

2010年調査に比べて、2016年調査では、「学習指導について」の満足度が上がっており、「教員生活と私生活とのバランス」の満足度は下がっている。



※データのない年度は、該当質問の調査なし

(ベネッセ教育総合研究所「第6回学習指導基本調査2016」より)

【中心的な審議事項】

- 学校が担うべき業務の在り方について
- 教職員及び専門スタッフが担うべき業務の在り方及び役割分担について
- 教員が子供の指導に使命感を持ってより専念できる学校の組織運営体制の在り方及び勤務の在り方について

## 【緊急提言のポイント】

### ■ 校長及び教育委員会は学校において「勤務時間」を意識した働き方を進めること

- ・ ICTやタイムカードなどでの勤務時間の客観的な把握
- ・ 部活動休養日等の部活動の適切な運用 等

### ■ 全ての教育関係者が学校・教職員の業務改善の取組を強く推進していくこと

- ・ 統合型校務支援システム導入促進による業務の効率化
- ・ 学校に対する依頼・指示等の整理・把握・精選・合理化
- ・ 給食費の公会計化の促進 等

### ■ 国として持続可能な勤務環境整備のための支援を充実させること

- ・ 勤務時間管理・業務改善の促進
- ・ 専門スタッフの配置促進（部活動指導員，スクールロイヤー等） 等

\*正式名称は、「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（中間まとめ）」

## 【学校・教師が担う業務の明確化・適正化 ～基本的な考え方～】

### ■基本的には学校以外※が担うべき業務

※地方公共団体，教育委員会，保護者，地域住民等

- ・ 登下校に関する対応
- ・ 放課後から夜間などにおける見回り
- ・ 学校徴収金の徴収・管理 等

学校以外が担うべき業務であり，地方公共団体や教育委員会，保護者，地域学校協働活動推進員や地域ボランティア等が担うべきもの

### ■学校の業務だが，必ずしも教師が担う必要のない業務

- ・ 調査・統計等への回答等
- ・ 児童生徒の休み時間における対応
- ・ 校内清掃
- ・ 部活動

地域や学校の実情を踏まえ，事務職員，地域ボランティア，部活動指導員をはじめとした外部人材が担うことを積極的に検討

### ■教師の業務だが，負担軽減が可能な業務

- ・ 給食時の対応
- ・ 授業準備
- ・ 学習評価や成績処理
- ・ 学校行事の準備・運営 等

補助的な業務や児童生徒の指導に直接的に関わらない業務については，サポートスタッフ，事務職員や民間委託等の外部人材等が担うことも

## 【対策の柱】

### ■業務の役割分担・適正化を着実に実行するための方策

- ・業務の役割分担・適正化を進めるための取組
  - ・それぞれの業務を適正化するための取組
- 例) 学校給食費については公会計化することを基本とした上で、(中略)各地方公共団体に公会計化するよう促す。  
社会全体での理解を得られるような発信を行う。

### ■学校が作成する計画等・組織運営に関する見直し

- 例) 複数の教師での協力作成・共有化。  
校内委員会の整理運用。

### ■勤務時間に関する意識改革と時間外勤務の抑制のための必要な措置

- ・勤務時間管理の徹底・適正な勤務時間の設定
- ・教職員全体の働き方に関する意識改革
- ・時間外勤務抑制のための措置

### ■「学校における働き方改革」の実現に向けた環境整備



文部科学省内に教職員の勤務時間や人的配置，教職員の業務量を俯瞰し，一元的に管理する組織を整備

## 【ガイドラインの内容】

### 1 適切な運営のための体制整備

- ・ 市区町村教育委員会や学校法人等の学校設置者は、都道府県の方針を参考に、「**設置する学校に係る運動部活動の方針**」を策定する

### 2 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

- ・ 運動部顧問は、（中略）各競技種目の特性を踏まえた科学的トレーニングを積極的に導入し、適切な休養を取りながら、**短時間で効果が得られる活動を実施**する

### 3 適切な休養日等の設定

- ・ 学期中は、**週当たり2日以上**の休養日を設ける。（平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上を休養日とする）
- ・ 1日の活動時間は、長くとも**平日では2時間程度**、学校の**休業日は3時間程度**とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う

### 4 生徒のニーズを踏まえたスポーツ環境の整備

- ・ 単一の学校では特定の競技種目の運動部を設けることができない場合には、生徒のスポーツ活動の機会が損なわれることがないよう、拠点校による**合同部活動等の取組を推進**する

### 5 学校単位で参加する大会等の見直し

- ・ 参加形態の弾力化（一学校からの複数チーム、複数校合同チームの全国大会、地区大会等への参加、学校と連携した地域スポーツクラブの参加）